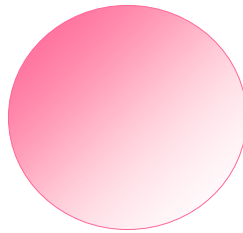


町田エスペラント会30周年記念誌

この10年のあゆみ

(2010年~2019年)

30-a jariĝo de Esperanto-Klubo de Maĉida



町田エスペラント会

周年

目 次

■ あいさつ

30周年を迎えて 町田エスペラント会会長 木村護郎クリストフ	1
--------------------------------------	---

■ 寄 稿

祝辞 日本エスペラント協会理事長 鈴木 恵一朗	1
エスペラントと私	2
明石芙美子、上農百合子、大西一一、河合計井子、木島健治、 木村護郎クリストフ、桐山雅昭、クーヴェ・クリスチャン、鳥居房子、 永木正子、早川吉則、実沢誠一郎、山本美郷	
町田から世界へ発信（世界エスペラント協会電子版会誌への投稿記事）	
Japania tradicia teatro “noo” -ĉu nur teda? 木村護郎クリストフ	14
Nokta Monteto 実沢 誠一郎	16
Kiel maljunuloj vivos post emeritiĝo? 明石 芙美子	16
Kompoŝto farita en kartono 鳥居 房子	18

■ この10年の歩み

活動の推移	19
火曜日の学習会	20
土曜日の学習会	20
月2回の学習会	21
入門・初級講習会	21
AMUZA KUNVENO	22
ザメンホフ祭	24
八ヶ岳合宿	26
外国人との交流	29
機関誌の発行	30
その他の事業	31
各種行事への参加	32

■ 資 料

活動年表	33
町田エスペラント会会則	37
会員名簿	39

■ あとがき

緊急事態宣言が出される中で 30周年記念誌編集員 永木 正子.....	40
-------------------------------------	----

30周年を迎えて

町田エスペラント会会長
木村護郎クリストフ

本誌に記録されているように、町田エスペラント会は、初級から中上級までの学習会の他、エスペラントを通じた国内外の交流を行ってきました。少人数ながらも、バランスのとれた多角的な活動を30年続けることができたのは、まず第一に、中心的に企画する人から、会費や声援で会の働きを支えてくれている人まで、会員一人一人の献身のおかげです。と共に、会のさまざまな催しに講師や参加者として来ていただいた方々のご厚意のたまものでもあります。多くの交わりに支えられてきたことに感謝しています。

折しも猛威を振るっているコロナウィルス感染の拡大もそうですが、環境問題や紛争問題など、地球規模で取り組まなければならない課題がたくさんあります。しかし、人の頭の中は、まだ、19世紀から20世紀に世界を席卷した「国民」意識にとどまっていて、国をこえる仲間意識、連帯感は弱いままです。それを強めるには、頭のなかだけではなく、実際の行動でつながりをつくっていく必要があります。エスペラントは、お互いが歩み寄る共通のことばによる交流を通して地球人(エスペラントで homarano)意識を醸成することをめざしています。地域に根差しつつ地球人としてのつながりを具体的に紡いでいく、地道な、しかしやりがいのある活動と一緒に参加してくれる仲間を待っています。

本誌に原稿を寄せてくれた日本エスペラント協会の鈴木恵一朗理事長および会員各氏、そして編集の労をとってくれた永木正子さんに感謝して。

Gratulmesaĝo

SUZUKI Keiichiro

Prezidanto de Japana Esperanto-Instituto

Karaj samideanoj de Esperanto-klubo de Maçida, mi gratulas vin nome de Japana Esperanto-Instituto ĉe la 30-jariĝo de via klubo.

Mi ĉiam estimas tre pozitivan aktivadon de via klubo. Vi okazigas ĉiusemajne kunsidojn, ĉiuseptembre havas kunloĝadon en Esperanto-Domo de Jacugatake, kaj okazigas decembre Zamenhofan Feston sendepende, kaj eldonas organon, "Amebrieto" regule, ktp. Lastatempe multaj lokaj Esperanto-organizoj en Japanio malfortiĝas. Tamen ŝajnas, ke via klubo daŭre havas modelan viglan aktivadon. Kompreneble dum 30 jaroj vi spertis bonan kaj ne bonan tempon, mi supozas.

Nun la mondo frontas al la epidemio de nova korona viruso. Tio donas grandan influon sur nia ĉiutaga vivo kaj agado de Esperanto. Ni ne povas havi kutimajn lernokunsidojn ktp. Sed mi kredas, ĉe ĉi tia neordinra situacio nia lingvo Esperanto funkcias efike kiel rekta viva komunikilo de samideanoj en la tuta mondo por solidareco kaj kunlaboro. Eble en estonteco oni memoros vian 30-jariĝon kun la rara tempo pro la korona epidemio.

Mi elkore deziras, ke via klubo prosperu direkte al la 40-jariĝo.

歴代会長 初代 上農 勝弘 (1990年)、第2代 水口 俊明 (1991年、1992年)
第3代 梶原 洋一 (1993~2007年)、第4代 木島 健治 (2008~2014年)
第5代 木村護郎クリストフ (2015年~)

テーマ「エスペラントと私」
Esperanto kaj mi

明石 芙美子

幼稚園父母会の読書会で、“宮沢賢治”の作品が取り上げられ、作品の中の主人公の名前や、文章の中に使われている擬音語がカタカナのとてもきれいな音で、彼が、エスペラント(世界共通語)を学んでいたのも、その影響ではないかという話になり、初めてエスペラントという言葉を知り、興味を持ちました。

その後、1965年に東京で世界エスペラント大会が開かれるということで、テレビでも盛んに取り上げられました。そしたら、読書会のメンバーの方に、公民館でエスペラントの学習をしている方たちがいらっしゃるといことを聞き、さっそくそちらにお伺いしました。しかし彼らは仕事をお持ちの方たちなので、土曜日も日曜日も活動できないということで、家族のいる私たちにとっては忙しい日で、続けることができませんでしたが、水曜日の午前中に教えてくださるという方(小川清一氏)が現れ、始めることになりました。“La Teksto Unua, Dua(テキスト 1,2)”の基礎からやさしい読み物 “Joĉjo, Karlo,…”等、でも、言葉を使っての会話の勉強に進むまでにはいかず、単語を辞書で調べてくるのが精一杯でした。それで先生も考えてくださって、海外の方との文通を勧めてください、さっそく Brigitte Raabe さんという東ドイツのポツダムに住んでいる方と始めました。同年代で社会福祉士として働いている方だったので、子供たちの事、日常生活の事などを書きあって、彼女がベテランだったのでどうにか 20 年以上続いています。途中、ドイツ統一が1990年にあり、彼女は職を失ってしまいましたので、少し間遠

になりましたが…。でも、私の夫が定年になり、初めての海外旅行はドイツを選び、ベルリンでお会いすることができ、ベルリンのいろいろな場所や、ポツダムのサンシー宮殿など、案内をしていただきました。また、彼女のベルリンのアパートでお昼をご馳走になったり、暖かいもてなしをしていただきました。その後彼女は、目の不自由なお母さんのお世話等で忙しく暮らしていらっしゃるようで、横浜での日本大会には是非とお誘いしたのですが、かないませんでした。それから年1回くらいの割合で手紙を交換しています。

その他に、先生は他のエスペランティストと話ができるように、地区大会(横浜)、日本大会(東京)、世界大会(北京)等を勧めてください、会話の機会を作ってくださいなのですが、なかなか話されていることばが理解できず、会話をするには至らず、“エクスクールソ(大会遠征)”ばかりに参加していました。これは、“Dua Bulteno(第2号大会案内)”に事前に説明があり、それを読んでいくと、大まかには理解できました。それで、最後に、日本で開かれる横浜大会では何とかお手伝いできるようにと、思い切って“NASK(北米エスペラント夏期講座)”に一人で参加することに決めました。日本人がいなければ、どうしてもエスペラントを使わなければならないかと思ったのですが、向こうに着くと 3 人のベテランの日本人の方々がいて、硬い? 決心も崩れてしまいました。何しろ日常生活の方法(洗濯機の使い方、コンピューター等など)、皆さん普通にいらっしゃるのですが、説明を聞いてすぐに理解できず、日本語での説明が必要でしたから。勉強のクラスは、1500 語、2000 語、3000 語クラスに分かれ、午前中 3 時間はそれぞれ分かれての勉強でしたが、午後はみな一緒に、ゲームをしながらの授業でした。私はもちろん 1500 語クラスだったので、授業は文法が主だったので理解する事はできた

のですが、説明をすることはなかなかできませんでした。それやこれやで、大変な21日間でしたがいろいろな経験をさせていただきました。

その翌年、横浜での世界大会に参加し、大会中のエクスクールズの鎌倉バス旅行のお手伝いと、大会後ネパールの S-ino Indu Devi HAPALIA さんの宿泊のお手伝いだけで済みました。

UK(世界エスペラント大会)には、1986年、北京大会、1998年、モンペリエ大会、2003年、ゴーテンプルグ大会、2007年、横浜大会、2011年、コペンハーゲン大会、2015年、リール大会と2008年、ベンガルールでのアジア大会等に参加しました。この中で、モンペリエで知り合ったフランスの Valet-VEIRMAN 夫妻とは20年近く文通をさせていただきました。

30年近くエスペラントに関わりながら、どうしても言葉が覚えられず、自由に会話をすることはできませんでしたが、読ませていただいた本や雑誌からたくさんのことを学ばせていただきました。80歳を過ぎて、もう進歩はないと思いますが、最後までエスペラントにかかわっていきたく思います。

Kiom da plezuro Esperanto donis al mi?

上農 百合子

Kiam mi aranĝis la ŝrankojn de libroj, mi hazarde trovis la libron 'Enciklopedieto Japano' eldonitan en 1964. Ĝis hodiaŭ mi ordigis librojn 2,3 fojojn ĝustatempe, tamen mi tute ne rimarkis ĝin. La scio pri la lingvo Esperanto tiel mankas al mi, ke mi ne rekonis gravajn librojn eĉ en la rakoj en mia ĉambreto por libroj.

Okaze de la eksigo de la laboro mi

decidis akiri parolkapablon en Esperanto. Kaj vizitante konversacian kurson kaj partoprenante en grupo de legado mi ĉiutage lasas min meti en Esperanto. Kiam peto pri afero de Esperanto venis al mi, mi volonte akceptis ĝin por sukcesigi la decidon. Nun ĝi malfermis al mi nekonatan mondon. Inter la aferoj en Esperantujo krom la klubo de Maĉida mi konatiĝis kun diversaj esperantistoj kapablaj. Inluite de tiuj homoj mi instigis min paroli kaj legi en Esperanto. La legado fariĝis mia plezuro. Tial mi ne povas ne depreni de mia vivo Esperantajn aferojn de libroj kaj per skajpo ĉiutage.

Nu, mi prezentos la ideon de s-ino Ilona KOUTNY, kiu estas profesoro en UAM (la Universitato Adam Mickiewicz) en Poznan, Pollando kaj ŝi rekomendas al mezaĝuloj lerni Esperanton, citante sian sperton de Esperanto-instruado en la universitato. Mi prezentas ŝian opinion, kiun mi tradukis.

ポーランドを例にあげて Ilona KOUTNY さんは述べている。(55歳以上の年代を対象にした大学での調査をもとにしている)

一般的にほかの言語を学ぼうとする動機は、

- ・仕事のため
- ・外国の人と話をするため(旅行、ネットで)
- ・ほかの文化を知るため(音楽、映画、文学など)
- ・外国にいる親せき、友だちとの交流のため
- ・(*)脳の活動の維持のため
- ・(*)余暇を有意義に過ごすため

外国語を学ぶ動機はほかの年代とあまり変わらないが、55歳以上の人は(*)のついた理由が加えられるという。そして、彼女はこの二つの動機はボケ防止に役に立ち、有意義な時間をもたらすという。今、

ポーランドにおいても英語を学ぶ人が多いという。エスペラントを学ぶ人は 1.82% とある（ロシア語は 87.69%、英語が 53.66%）。学ぶ人はわずかであるし、エスペラントを習得しても仕事に使うのも話すのも限定的である。しかし、素晴らしい実益があるという。それは、エスペラントは世界のいろいろな国の人と話ができ、より大きな援助が得られる（大きな町にデレギートがいる、受け入れのサービスや直接、現地の情報が入手できるなど）というもの。そして、55歳以上の世代の人が望む（*）の二つの動機を満たすことができる（基本の会話が少ない時間でできるようになる）。最後に、Ilona KOUTNYさんはエスペラントとエスペラント界はエスペラントが55歳以上の方々の要求を満足させることができる言語だから学びましょう、と提案する。なぜ、学びやすいか、その理由は、エスペランティストはよく知っていることであるが、彼女は、①発音が簡単、②単語の変化がない、③文法に例外がない、④単語を組み合わせて創ることができる、⑤表現がわかりやすいということをあげている。

最初にこの小論文を読んだとき、今、若い世代に伝えたいために活動しているのに55歳以上の人にどうしてエスペラントを勧めるのかと憤慨したがよく考えてみると納得する自分がいた。若い世代はエスペラントを古くて益がないと考えている若者が多いということを知った。また、エスペラントを学んでいると聞いてあざ笑うものもいるらしい。だから、年齢にかかわらずエスペラントを学んでくれればのちの社会にも残っていくのではないかと今は考えている。そして、そのすばらしい理念を理解する人が増えていってほしいと考えるのは現実離れしているだろうか。私はそうであることを期待している。

En la lasta aŭtuno ges-roj Martine kaj Max DEMOUY vizitis Japanion por ĝui aŭtunon kaj partopreni en la

106-a Japana Esperanto-Kongreso. Kaj mi proponis al s-ino Martine havi la enkodukan kurson kun mi, ĉar mi akceptis la gravan laboron en la Kongreso, kaj mi volis plenumi ĝin kun ŝi, ĉar mi kaj ŝi partoprenis en la kongresoj, ILEI-oj kaj UK-oj, de kiam ni fariĝis amikoj en la jaro 2010 kaj ni kune lernis Esperanton kaj gvidmanieron. Kaj mi supozis, ke eble ĉi-foja ilia vizito al Japanio estos la lasta kaj ni ne povos renkontiĝi kun ili en iu ajn kongresoj. Kaj ĝi ne estis plenumita pro la terura tajfuno, kvankam ŝi volonte akceptis ĝin.

Post la Kongreso ni trovis niajn proprajn vojojn por Esperanto – Martine kunlaboras kiel ILEI-delegito de UNESKO kun aliaj membroj. Miaflanke laŭ mia plano mi disvastigos Esperanton al miaj konatoj kaj aliaj homoj, plibonigante miajn sciojn kaj kapablon pri Esperanto. Kaj mi daŭre legos Esperantajn librojn, ĉar la legado donas al mi plezuron kaj sciojn pri mondaj aferoj.

大西 一一

2018年の8-9月号「La Revuo Orienta」誌の「私のエスペラント人生」欄に、私がエスペラントを学び始めたきっかけと題して、エスペラントと私の関係について載せて頂いたので読まれた方も多いのではないかと思います。あれから2年近く経つが、エスペラントと私の関係には何の変化もない。したがって、今回の「エスペラントと私」も同じような内容になることをお許しいただきたい。

私がエスペラントを学び始めたのは1969年ごろ、16歳の時であったと思う。学び始めたと言うより、なんだか分からない

ちに引き込まれていたという方が実態に近いかもしれない。エスペラントが何かを知らずに始めたから！私はエスペラントと出会う年の前年、1968年の4月に鹿児島県の田舎から集団就職列車に乗って東京へやってきたのである。集団就職列車というと、北の方から上野駅を目指してきた列車とばかり思っている人もいるようだが、九州からも大阪、名古屋を経由して東京駅まで来るものもあったのである。中学卒業後すぐに就職する人たちを当時の世間では金のタマゴと呼んでいた。私はその金のタマゴ世代の最後に近い方である。

会社に入って1年後に定時制高校(夜間)の機械科に入学した。会社の通常の勤務時間は8時半から17時半までなので、16時に仕事を終わり学校へ行くのである。会社は有給で早退を認めてくれていた。授業は18時から21時までなのだが、先生たちも早く帰りたいから、だいたい20時40分～45分頃に、早いときは20時半には終わりになる。会社の寮に帰り着くのはだいたい21時半から22時くらいで、それから夜食のインスタントラーメンを作って食べたり少しテレビを見たりして、12時頃寝るのが日課であった。そんな日課に異変が起きたのである。

ある日の夜、寮の廊下を自分の部屋に向かっていたら、通りかかった部屋の扉が開いて、中から何やら騒々しく議論するような話声が聞こえてきた。通り過ぎようとしたら、運悪くというか何というか気づかれてその部屋に入るように言われた。中には3人の先輩がいて、煙草のもうもうとした煙とお酒と先輩たちの議論、私は中に入って緊張したまま時間の過ぎ去るのを待っていた。やがて2人の先輩が自分の部屋へ引き上げていった。残ったのは私とその部屋の住人である、故上農勝弘さんである。これが私と上農さんとの初めての出会い、そしてエスペラントとの出会いである。2人が帰った後しばらくして上農さん

は私にエスペラントなる言葉を教え始めたのである。2時間くらいして夜も更け12時くらいになったころ、上農さんは「よし、今日は終わろう、明日から毎日、学校から帰ってきたら俺の部屋へ来い」と言ったのである。それから上農さんが寮を出るまでおよそ6ヶ月間毎日1対1での講習が続いた。宿題も出されて私が寝るのは夜中を過ぎた2時、3時というのが常であったから、翌朝は眠くて眠くて、会社の始業時間に1週間に2回くらいは遅刻したりして、ひどいときは係長が寮まで起こしに来てくれていた。係長は「会社が嫌ならやめてもいいんだぞ！」と言ったが、私は会社が嫌な訳ではなく、単に眠くて起きられなかっただけであった。

その後は寮で一人で独学である。夜中にザメンホフの演説集を音読したり、音読したものをカセットテープに録音して聞いたりした。

やがて上農さんが「大和エスペラント会」なる会を創って、大和駅の近くにある神奈川県立青少年会館で一般向けの講習会をやるようになった。当初の会員は10名ぐらいいたが、私と上農さん以外は会社の知り合いの人たちでサクラであった。新聞の講習案内を見てきた人たちが、がっかり、心配しないようにという上農さんの知恵であった。

その時に新聞の講習会案内を見てやって来て現在まで残っているのが、「町田エスペラント会」で活動されている永木正子さんである。青少年会館での講習以外にも、大和駅前の喫茶店で会話勉強会をやったり、会報を発行したりした。私も学校が休みの時などは青少年会館に行ったり喫茶店に行ったりしていた。

やがて時の経過とともに生活の基盤が変わって、活動の拠点は町田になっていき大和エスペラント会は自然消滅して、町田エスペラント会が誕生した。私も町田での最初のころの講習会や、公民館祭で展

示などした記憶があるのだが、いつまで継続的に活動に参加していたのか記憶があまりである。エスペラントに出会ってから一番勉強したのは最初の6ヶ月間、それから15年間くらいはまじめに地域エスペラント会の活動に係わってきたが、その後は疎遠になってしまい今に至り、町田エスペラント会でも幽霊会員みたいである。

そろそろ幽霊から脱しなくちゃという気持ちはいつもあるのですが！



脳活性化は続くか

河合 計井子

「エスペラント」と出会ったのは1980年代半ば。現在の地に移り住み、しばらくして広報「まちだ」の紙面にいろいろな活動があることを知り、公民館へ行った。当時、40代半ば、自分の人生を考えてみて、これから先、ボケないように(当時、認知症という言葉は広く行き渡っていなかった)「何か学ぶ」ことが必要。それには語学が良いのではと思い、語学講座について尋ねたところ、英語、スペイン語、エスペラント。その時まで全く聞いたことがなかったエスペラント、知らない事に挑戦する、これは最良の答えと思い、週一回学ぶことにしました。指導者、学ぶ仲間にも恵まれ、現在も続けている。人間は誤りをする者と思っているので、覚えた単語、作文の誤りはなかなか減らない。このように行きつ戻りつの学びではあるが、楽しく学び続けられることが一番と思う。幸い、現在は至って心身ともに健康。エスペラントのお陰かもしれない。



50年前の私のエスペラント

木島 健治

エスペラントのスタートは、大学入学時に何か変わった事をしたいと思い、たまたま目に止まったエスペラントクラブに入ったのが始まりです。丁度2年後の1965年に第50回世界大会が日本で開かれることになっており、日本のエスペラント界でも機運が盛り上がっていました。ただ海外から大勢の外国人を受け入れるに当たり、会話の出来る人が不足していることが、受け入れの日本エスペラント学会の大きな悩みでした。そこで急遽、3日から一週間程度の合宿が全国各地で行われるようになり、私も学生時代に15回、各地の合宿に参加して、会話を中心に学び、またハイキングや登山、飲み会などでダジャレ会話をエスペラントで得意がってしたものでした。当時の私の先生は、学会の三宅理事、学生の大庭、東海林先生、関西の藤本先生などが思い出されます。当時学会はスタッフも少なく、世界大会の準備も大変だったと思います。そしてかなり前から、大会本部のポンピリオ氏が準備のために学会に来て、日本の準備委員と運営を進めていたようですが、なにしろ彼の口から機関銃のように出てくる美しいエスペラントを遠くから聞いて、学会に入り浸っていた私は、羨望のまなざしでした。三宅理事が、今日はSENPON(ポンピリオぬきの日本語)でやろうとよく言っていたのを思い出します。

世界大会では、あまりお手伝いは出来ませんでした。私的に外国から来た人を各地に案内したり、自宅に招いて畳の上で箸を使って寿司を食べてもらったりして、大いに楽しんでもらいました。

大会が終わって、大庭先生が千駄ヶ谷で始めた千駄ヶ谷エスペラントクラブや自宅近くでしばらく続けていましたが、家の引っ越しやらその他で約20年以上エス

ペラトから遠ざかり、町田近くに引っ越してきてから、町田エスペラント会に入り、時折顔を見せる程度に参加させてもらっています。



ぜいたくな海外旅行とは？

木村護郎クリストフ

ぜいたくな海外旅行、というと、高級ホテルに泊って高級な料理を食べることを思い浮かべるかもしれない。しかし、エスペラントのおかげで、私はまったく異なるぜいたくがあることを知った。

私は大学の教員をしているが、はじめて参加した海外の国際学会は、2002年、韓国のソウルで開かれた国際コミュニケーション学会であった。大会の全体テーマであった「言語と和解」に関して、エスペラントが東アジアの人々の和解にどのような役割を果たしたのかを検証する分科会を韓国、中国のエスペラント研究者と開催した。この学会では当然のように英語が用いられ、参加者も大多数が英語圏（特にアメリカ合州国）からであった。まるで「アメリカ・コミュニケーション学会」がソウルに巡業(?)に来ているようだという皮肉も韓国人学者から聞いた。国際コミュニケーションにおける英語の圧倒的な力（とその背景にあるアメリカ合州国の力）を改めてみせつけられる思いがした。

しかし、このような、英語によって（英語ができる一部の人々の間で）言語問題を解決したかのようにみえるコミュニケーション学会におけるコミュニケーションをみていて、ふと奇妙なコミュニケーションの断絶に気づいた。学会参加者のコミュニケーションは、大会会場となった、丘の上にそびえるヒルトンホテル内にほぼ限定され、ソウルの「下界」とは隔離されていたのである。たいていの参加者は、ホテル内の

宿泊部屋と会議場を上下するだけで用が足りた。知り合いになったアメリカ人たちは、空き時間に南大門市場に焼き肉を食べに行くのが唯一の現地との接触だったようだ。このような断絶に気づいたのは、私たち（同じ分科会で発表した臼井裕之さんと私）日本から参加した2人のエスペランチストは、エスペラントの宿泊提供者網パスポルタ・セルボを使ってソウルのエスペランチストの家に泊めてもらっていたからである。

泊めてくれたのは、都心から離れたアパートに住む若い夫婦であった。とても用意周到な夫妻で、子どもが生まれた時のためにと早々と用意しているという二段ベッドに臼井さんと私は寝させてもらった。近くの路地で地元の人たちと混じって夕食を食べた他、私たちが来ることを聞いたソウルのエスペランチストたちとの食事会などもあった。

ソウル訪問では、軍事境界線上の板門店を訪問したことや、学会にあいさつに来た金大中大統領と握手したことも印象的であったが、とりわけ、宿泊先の夫妻と、仕事や生活の状況、将来の希望など、いろいろ話すことができたことが大きな思い出となっている。狭いアパートの二段ベッドからソウル市民と共に通勤ラッシュの電車にゆられて学会会場に日々「通勤」した私たちと、韓国の社会から遮断された高級ホテルですごした他の大多数の学会参加者と、どちらがぜいたくな体験をしたのだろうか。

その後も、海外出張などの折、言葉が通じない国でも、エスペラントを使って現地の人と交流してきた。我が家でもパスポルタ・セルボに登録し、毎年、いろいろな国からの客人を迎えている。たいしたおもてなしはできないが、ふだんの生活を体験してもらうのがなによりのおもてなしだと考えている。客人と語り合うぜいたくな時間が、私にとって、エスペラントの一つのだいご味になっている。

特定の国や地域に限らない幅広い国際交流に関心がある人は、エスペラントを学んでみたら面白いにちがいない。既にエスペラントを学んでいる人は、パスポルタ・セルボへの登録をお勧めしたい。都合が悪いときは遠慮なく断ればよいし、しょっちゅう連絡が来て対応に追われるということもない(我が家の場合、問い合わせは年数件)。また宿泊者数や日数など、自分の好きな条件で泊めることができる。余りの布団がなかったら、”kunportu dormsakon”(寝袋持参のこと)と書けばいい。パスポルタ・セルボは世界に広がるエスペラント・ネットワークの基盤の一つである。ぜひ登録を!

<写真について>

拙宅に、同時期に複数の客が来ることも。狭い空間を分け合うことになるが、複数の文化交流も楽しい。



アルゼンチンとチェコの客人と



香港とインドの客人と

私のエスペラントメモランダム

桐山 雅昭

私の学生時代の数年間と、30 数年後に学習を再開して今までの12年間のエスペラント活動をメモの形でまとめた。

岐阜市の県立高校2年生の時、国語の教科書に、ザメンホフの伝記があり、争いのない世界を作るために、誰にとっても中立な人工語を考案したことを知った。エスペラントのことをもっと知りたくて、本屋さんに行き、大学書林発行、大島義夫さんの「エスペラント四週間」を購入し独習を始めた。東京の大学に入学して、すぐにエスペラント研究会に入会した。当時は全国的に学生運動が渦巻き、エス研もエスペラントの学習や普及のための活動はほとんどなく、もっぱら社会・政治問題の議論や活動が中心であった。私は何人かの部員とともに市ヶ谷(?)にあった TELS(東京学生エスペラント連盟)の事務所を拠点に、他の大学の仲間たちと交流した。

その後大学院を経て、神奈川県メーカーに就職。以降エスペラントのことは完全に忘れて、仕事中心の生活を送り、30年以上が経過した。ある時、大学の同窓会をやるということになった。待ち合わせ場所の新宿紀伊国屋で何気なく語学のコーナーに行ったとき、なんと「エスペラント四週間」が目についた。何故だかとても目立っていた。懐かしさから、衝動買いして、翌日から学習を始めた。そのとき58歳、2007年のことだった。この直後に横浜で世界大会が開催されたが、私はそれを知らず参加できなかったのは残念だった。「四週間」を通読してから、沼津エスペラント通信講座を受講した。集中的に取り組んで初級・中級コースを1年間で終えたが、エスペラントで考え、エスペラントで話すということについて、とても力が付いた。藤巻謙一先生のアドバイスや、励ましのことばが本当に有り難かった。

2009年に大阪へ転勤となりその後6年間単身赴任生活を送ることになったが、ここで多くのエスペランチストと知り合い、エスペラントの活動について体験することができた。最初に大阪エスペラント会に入会した。作文や、エスペラントでの各自の報告、翻訳等の他に、ザメンホフ祭や関西大会での出し物の発表など、いろいろと体験することができた。若いエスペランチストも加わりいろんな議論もできた。新人への学習講師もまかされ、とても勉強になった。京都の田平正子さんが主催する毎月曜日の Babilkunsido(おしゃべり会)にも参加させてもらった。外国のお客様を迎える時だけでなく、いつも9時まで Nur Esperanto(エスペラント語のみを使用)。韓国の Ebla(エブラ)やフランスの Laurent(ロホン)と SKYPE 会話も始めた。最初の2年間位は、Ebla とは毎日曜日、Laurent とは毎土曜日にそれぞれ1時間くらいおしゃべりした。話題の準備も含めて結構このために時間を使った。大阪での後半には大阪 E 会の H 氏がユニークなロンド Kafejo Lante を企画し一緒にその立ち上げを行った。会は3か月に1度のペースだが、多士済々のメンバーが集まり、有意義なひと時を過ごすことができた。大阪の6年間を通して、JEI(日本エスペラント協会)の Seminario(セミナー)と KLEG(関西連盟)の Friska Lernejo(林間学校)、後半からは八ヶ岳の NEK(NurEsperanta Kunvivado:エスペラント漬け合宿)にも参加した。訪日中のスペイン人ホルへご夫妻を、大阪の Nさんと2日間名所の案内をした。ホルへが“La Mava Lingvo(悪い言語)”の筆者であり、また著名な詩人であることは、そのかなり後に知った。

2015年、65歳になり定年退職を迎え、海老名市の自宅に帰った。会社の要請があつて2年間は五反田の本社に週3回、1日5~6時間通うことになった。2年間67歳までの契約である。すぐに海老名に近

い町田 E 会に所属した。また7月にフランスのリールで開催された第100回記念世界大会に参加した。東京のお台場で年1回開催されるグローバル・フェスタにもヘルパント(お手伝い)として参加した。休日が増えて自由な時間が持てるので、八ヶ岳の運営委員、JEIの協議員、翌年には RO 誌 Tra Japanio(JEI 機関誌の国内情報ページ)の編集担当を引き受けた。また、Web 版ドリル式エスペラント入門がオープンされるタイミングであったので学習支援チームに加わり、質問への回答窓口の担当を始めた。八ヶ岳での NEK の世話人にもなった。

ところが、2016年親会社の都合で、古巣の相模原に戻るようになった。さらに1年後には毎日、しかも定時間勤務(8:00-17:00)、定年は後任が確保できるまでという想定外のこととなってしまった。自由な時間を生かそうと、たくさんのを始めてしまったが、予定が大きく変わってしまい大変困っている。ただ、昨年70歳の古稀を迎え、今年はやっと会社の方も本当に退職できそうなので、これを機会にギアチェンジをしなければと考えている今日この頃である。

Christian Couvez

Mi unuafoje aŭdis pri Esperanto kiam mi estis infano, ĉar en mia naskiĝurbeto ekzistas Zamenhofstrato. Tiam oni diris al mi ke li inventis facilan internacian lingvon, sed bedaŭrinde neniu parolas ĝin. Tion mi povis nur kredi, ĉar en tiu tempo ankoraŭ ne ekzistis Interreto por pli scii pri tio. Kaj mi ne povis imagi, ke homoj komunikis per leteroj Esperante.

Longa tempo poste, kiam mi povis uzi Interreton, mi interesiĝis pri projektoj de traduko per komputilo. En tiuj projektoj, kelkaj proponis uzi Esperanton kiel pivotan lingvon. Mi rapide legis informojn pri Esperanto, sed mi legis nur pri la lingvo kaj nenion pri la kulturo. Do mi ankoraŭ pensis ke la lingvo ne estas utila, ĉar mi ne havus okazon paroli kun aliaj homoj. Do mi ne provis lerni tion, sed la ideo restis en mia kapo.

Mi jam loĝis en Japanio kiam mi eklernis Esperanton, en la fino de la jaro 2013. Eble ĉar mi legis ke la Universala Kongreso okazos en la urbo kie mi loĝis en Francio, Lillo.

Mi lernis sole, pere de unu retkurso por franclingvanoj. Mia unua intenco estis nur vidi ĉu vere tiu lingvo estas tiel facila. Antaŭ komenci, mi pensis ke mi tuj poste haltos lerni tion.

Probable tiel tio okazus se mi estus en Francio kiam mi eklernis. Sed ĉar mi jam loĝis en Japanio, kvankam mi estis komencanto, mi aŭdacis provi renkonti lokajn esperantistojn. Mi unue trovis klubon en mia urbo, Kawasaki, sed ĝi ne estas facile atingebla per trajno el mia hejmo. Finfine, serĉante la japanajn uzantojn de la retejo "lernu.net", mi bonŝance povis kontakti unu membron de la grupo de Maçida. La urbo Maçida estas pli proksime de mia domo. Ekde aprilo 2014, mi frekventas tiun rondon.

La plej multajn interesajn renkontiĝojn mi havis en Japanio pere de Esperanto. Ĉar mi ne povas sufiĉe bone paroli la japanan lingvon por esprimi ĉion, kion mi volas diri. Dum mi povas interparoli pri pli multaj temoj en Esperanto. Krome en kunvenoj pri Esperanto, mi ne nur

renkontas japanojn, sed ankaŭ aliajn eksterlandanojn.

Mi delonge intencas konstrui ludon por instrui la lingvon, sed nun al mi mankas tempo por tio.

鳥居 房子

60歳を過ぎて始めたエスペラント語、それから十余年が過ぎました。新しい単語の脳への定着の悪さを嘆きつつも細々と続けています。

何故かと考えた時、私にはふたつの理由が思いつきます。ひとつはエスペラント語を日本語に訳す時パズルを解くような面白さを感じることに。

もうひとつはエスペラント語と出会わなければ知ることが無かった場所や人を知ることができるということです。フランスでの世界大会に参加した時、会場でたまたま隣に座ったフランス人男性が話しかけてくれました。彼が世界を旅行して本を書いたこと、日本にも三ヶ月半滞在し、農家の手伝いをして泊めてもらいながらあちこち行ったと話してくれました。私がもう少し話せたらもっと話が弾んだのにと残念に思いました。

また、日本に来る外国のエスペランチストと楽しそうに話している先輩方を見るにつけ、もうちょっと話せるようになりたいと思う日々です。

エスペラントで海外デビュー

永木 正子

エスペラントで国際文通をしませんか!
3か月の勉強ですぐ書けるようになります。
英語に比較して1/5の労力でマスターで

きます。

これは、新聞に掲載されていたエスペラント講座の案内を見て主催者に問い合わせた折にいただいたチラシの文言です。さらにそこには、一エスペラント語は、ポーランドの眼科医が考案した人工国際語で、今では、世界中にエスペランチストが散在して、世界平和のために活動しています。毎年1回開催される世界大会には日本からも30名以上の青年が参加しています。一と書かれてありました。当時、青年だった私は、特に国際文通がしたかったわけではないのですが、「英語の 1/5 の労力でマスターできる」というところに惹かれて初級講座に参加しました。実際、エスペラント語は、文法が簡潔で、規則正しく、ローマ字とほぼ同じ発音で英語のように同じ文字でも違う発音をするということがないので、読むのはとても簡単でした。さらに、品詞や時制は語尾が変わるだけなので覚える単語も少なく済むこと、法則化されている接頭辞、接尾辞を使うことで新しい単語を作ってしまうなど、英語をしゃべれない私でも楽しく学ぶことができました。

初級講座終了後に参加した焼津の全国合宿で、周囲から世界大会の話聞いた時には、自分が外国に行くなんて考えてもいなかったのに、翌年、ベオグラード(当時はユーゴスラビアの首都)大会に大和スペラント会(町田エスペラント会の前身)から、講師の上農勝弘さん、若者料金(20歳まで)だった大西一さんと一緒に東京の大場滋子さんが企画した旅行団に参加して、エスペラント海外デビューを果たしました。初めての大会でしたが、自分のエスペラントが外国の人に通じたときのうれしさ、そして、「saluton (こんにちは)」と声をかけるだけで親しくなれる雰囲気がとても新鮮で感動したのを今でもはっきり覚えています。

その後、世界大会に14回参加し、大会で知り合った方のお宅に泊めてもらったり、

世界エスペラント協会のデレギート(各国に在住する世話人)を頼った旅行もしました。町田エスペラント会の行事にゲストとしてお呼びした流れで、我が家に泊まっていたいただいた外国人エスペランチストも何人かいます。

エスペラントの良さは、どこの国にも属さない中立のことばであるところだと私は思っています。創始者がヨーロッパの人なので、スペイン語やイタリア語に似た単語が多いのは確かで、単語を覚えるのは簡単ではありません。イタリアの友人と話している時に、その友人は単語が出てこなくても知っている言葉に接頭辞を付けたりして、理解できるように伝えようとしていました。イタリア人にとってもエスペラントは新しい言葉であるという点では、日本人と同じなのです。エスペラントを話すというだけで、「samideano(同志)」と呼べる場所もすごいです。幸いなことに、各国のエスペランチストが町田エスペラント会にも時々来てくれます。エスペラントが世界語であることを試す絶好の機会を与えてくれるのはありがたいことです。

これからも、エスペランチストで良かったと思える瞬間に出会うため、へんてこな単語でもとにかく話すことで会話力は身につくと信じて、図太くエスペラント界にとどまっていようと思います。



2015年ルール世界大会会場にて
イタリア人の友人家族と

世界共通文字と新しい計算法の開発及びエスペラントによる普及活動

早川 吉則

初めてエスペラントの事を聞いたのは中学生の時でした。当時エスペラントが大学生の間で流行していたからです。

その後しばらくして大学院生の時に再び同僚から易しい国際語エスペラントの事を聞きました。またこの時代韓国の留学生から日本語とよく似た韓国語の初歩と世界一合理的と言われる文字ハングルとを習いました。ずっと後で筑波大学に就職してから茨城エスペラント会で本格的にエスペラントを教わりました。その後川崎市に転居して町田エスペラント会に入れていただきました。

世界一易しい国際語エスペラントの思想も取り入れ、韓国のハングルの作字法と日本のカナの濁点などをヒントに世界一易しい文字「世界共通文字」を作りました。また文字と文字を合体させて新しい文字を作るという世界共通文字の作字法がヒントとなって数字と数字を合体させて足し算の答えの数字を作るという「コンピューター数字」を発明し、また同じ考えで「線による計算法」も開発しました(掛け算は古代インドの計算法です)。

会費を払っているだけの不良会員で世界共通文字や新しい計算法の(多分)間違いの多いエスペラントの動画(youtube)などを投稿しています。またエスペラントの同志的つながりを利用してフェイスブックで友人を三千人以上に増やし、世界共通文字や易しい新しい計算法の普及活動を行っています。

Esperanto kaj Disvolviĝo de Universalaj Literoj Alfabetigaj kaj novaj metodoj por Kalkulado: Kaj disvastigi agadojn per Esperanto

Mi unue aŭdis pri Esperanto, kiam mi estis en mezlernejo. Ĉar Esperanto estis populara inter universitataj studentoj en tiu tempo.

Kiam mi estis diplomita studento, mi denove aŭdis de mia kolego pri facila internacia lingvo Esperanto. Dum ĉi tiu tempo, mi lernis ankaŭ de korea studento, la bazon de la korea lingvo, kiu tre similas al la japana, kaj Hangulo, kiu estas la plej racia litero-sistemo en la mondo. Poste mi akiris laboron ĉe Universitato de Tsukuba, kaj mi lernis Esperanton ĉe Ibaraki-Esperanto-Societo. Post tio, mi translokiĝis al Kawasaki-Urbo kaj aliĝis al Esperanto-Klubo de Maçida.

Sub la influo de la ideo de la plej facila internacia lingvo Esperanto, mi kreis la plej facilajn Universalajn Literojn Alfabetigajn de la mondo kun la indicoj de racia korea skribosistemo Hangulo kaj japana Kana (dakuten ktp). Krome mi elpensis la "Komputilajn Ciferojn", ke kombinaĵo de du ciferoj estas la cifero de la rezulto de la aldono, kun la aludo de la Universalaj Literoj Alfabetigaj, ke kombinaĵo de literoj donas alian literon. Mi ankaŭ disvolvis "kalkulmetodon per Linioj" (multiplikado estas antikva hinda kalkula metodo). Mi kreis filmetojn (youtube) en Esperanto de Universalaj Literoj Alfabetigaj kaj novajn metodojn de kalkulado.

Mi ne estas bona membro de Esperanto-Klubo de Maçida, nur pagante la membrotizon. Sub la kamaradeco de Esperanto, mi pliigis la nombron de amikoj en Facebook ĝis pli ol 3.000, kaj mi disvastigas Universalajn Literojn Alfabetigajn kaj novajn facilajn kalkuladajn metodojn.

実況 誠一郎

エスペラントで世界に目を向けたい！

山本 美郷

私は京都の歌手・野田淳子さんの歌を通じてエスペラントを知り、学ぶようになった。ザメンホフの人類人主義思想や、世界共通語という思想に共鳴しながら、学習を続けている。

なんと言っても海外の同志との文通が楽しい。同志の手紙から、同志の暮らし、思想、周辺の情景が伝わってきて視野が広がるのを感じる。

町田エスペラント会との関わりとしては、土曜の学習会に月に1回は参加する努力をしている。先輩方の読みの深さから毎回、刺激をもらっている。

個人的な努力としては、エスペラントで書かれた児童文学を訳して冊子にして発行し、エスペラントの存在を知らせてはいる。だが、「私も学びたいです」という人はまだ現れない。

若い同志の育成策として、エスペラント無料学習会のポスターを作り、近隣の高校の校内で貼ってもらうことを構想しているが、まだ実行できていない。

私は、エスペラントや数ヶ国語に親しむことで、日々の楽しみを得ている。英語一辺倒ではない形で国境を越えて文化が交流され、視野の広い人が増えていくことが世界史の発展に資すると信じている。

日本政府は日米安保体制を軸に据え、米国資本の日本参入をも視野に入れ、英語教育(正確には米語教育)に傾注しようとしている。しかし、政治経済的動機で米語教育を強引に強化することが子どもたちの真の利益になるとは思えない。米語帝国主義、及びそれに追従する米語至上主義との闘いが必要な時期であると認識している。その意味でも、エスペラントの思想(国家の政治経済的利害に無縁な世界共通語による交流という思想)を広げたいと思っている。

Kiam mi eniris universitaton, mi aliĝis al Esperanto-Klubo nur kun scio, ke ekzistas internacia lingvo nomata Esperanto. Unue, mi uzis mian libertempon por lerni Esperanton en la klubĉambro de la universitato, sed agadoj de Rondo Harmonia de Hiroŝima pliiĝis kaj la studentoj de Universitato Hiroŝima kaj pluraj proksimaj universitatoj kolektiĝis en la oficejo por lerni la lingvon. Krome ni okazigis Esperantajn kursojn por urbanoj. Ni havis ankaŭ ŝancojn gvidi eksterlandanojn, kiuj vizitis Pacparkon, Muzeon pri Atombomboj, la Insulon Mijaĵima, ktp, babilante en Esperanto.

Mi ankaŭ interŝanĝis leterojn kun kelkaj eksterlandaj esperantistoj. Inter ili mi sola vizitis la domon de ĉeĥa korespondanto. Kaj alie kiam litova korespondanto alvenis al Japanio, li vizitis Japanan Esperanto - Instituton. Tiam mi povis renkontiĝi kaj paroli rekte kun li.

Mi konatiĝis kun kroata esperantisto en unu el la Universalaj Kongresoj kaj kelkfoje mi renkontiĝis kun li en la Kongresoj. La eksterlanda esperantisto en la plej ofta komunikiĝo estas unu germano. Li kaj mia amikino renkontiĝis en Esperantujo. Ili geedziĝis kaj loĝis en Germanio. Ni do dum jardekoj daŭrigis reciprokan vizitadon kaj havis multajn ŝancojn paroli en Esperanto, sed bedaŭrinde li jam forpasis.

Kiam mi havis pli da neokupita tempo, mi hazarde aliĝis al Esperanto - Klubo de Maçida, kaj tamen nun mi tre dankas miajn klubanojn pro mia rilato kun Esperanto. Krome,

mi partoprenas la cerbo-trejnnan lernadon okazantan ĉe Katmana Domo en Gumjoĵi, Jokohamo, kio estas amuza tempo kun ridado kaj kun teo.

Nuntempe mi sentas limon de mia fizika forto laŭ mia maljuniĝo, tial mi ne povus vojaĝi eksterlanden, kio postulas longatempan transiĝon kaj ĉagrenas pro hordiferenco. Mi tamen volas eĉ teni daŭre la senton direktitan al eksterlando kiel esperantisto.

<要約>大学入学と同時に、エスペラントの学習を始めたが、故郷の広島では、海外からのエスペランチストと交流を持つことができた。

また、数人のエスペランチストと文通を始め、チェコの文通相手の家に泊めてもらったり、リトアニアの文通相手が日本を訪れた時には、JEI(日本エスペラント学会)で会うことができた。世界大会で知り合ったクロアチアの人とは、その後何度か世界大会で再会した。私の友達が、ドイツのエスペランチストと結婚したので、エスペラントで話す機会に恵まれたが、残念ながら、もう亡くなってしまった。

時間に余裕ができた頃、町田エス会の一員になることができて、幸運だった。現在は、体力的に遠い海外には行けそうにないが、これからもエスペランチストとして世界に目を向けていたい。



2015年リール世界大会「国際芸術の夕べ」で歌う国際合唱団

町田から世界へ発信

町田エスペラント会設立30周年を記念して世界エスペラント協会の電子版会誌 *Reta Revuo Esperanto* に投稿しました。2月に投稿した2件は3月に掲載され、冊子 *ESPERANTO* 4月号でも紹介されました(裏表紙裏参照)。



<https://revuoesperanto.org/>

Monda Kulturo

Japana tradicia teatro “noo”

– ĉu nur teda?

KIMURA Goro Christoph



<https://eo.wikipedia.org/wiki/Noo#/media/Dosiero:Noh3.jpg>

Noo estas tradicia japana teatro, kiu estiĝis en la 14-a jarcento. Ĝi estas muzika teatro, en kiu oni uzas maskojn. Pli da informo: <https://eo.wikipedia.org/wiki/Noo>

Bedaŭrinde noo havas la reputacion, ke ĝi estas teda. Ekzemple, kiam la franca reĝisoro Julien Duvivier vizitis Japanujon, li spektis “noo” kaj rimarkis:

“Noo estas neelteneble teda! Se mi estus juĝisto, mi kondamnus

kulpantojn anstataŭ al kvin-jara punlaboro al kvin-jara noo-spektado.”

Ĉi tiu opinio estas ekstrema, sed laŭ mia observo ne malmultaj homoj, interalie ankaŭ japanoj, havas opinion similan al la lia. Ili diras, ke noo estas dormiga, al noo mankas movo ktp, kaj pro tio ili konkludas, ke noo estas teda. Ĉi tiu artikolo estas provo kontraŭargumenti tiujn opiniojn.

Unue mi volas atentigi pri la fakto, ke s-ro Duvivier spektis noo-n nur unu fojon. Sed estas eraro juĝi de ununura sperto pri ĉio. Fakte, ekzistas diversspecaj noo-verkoj kaj ne ĉiuj verkoj igas la spektanton dormema. Kutime oni dividas la noo-verkojn en kvin specojn: dramoj pri dioj, pri milito, pri amo, pri frenezeco kaj pri ogroj. Ekzemple la verkoj pri ogroj estas movplenaj kaj viglaj. Malfacilas dormi dum tia spektaklo! Kontraŭe, en verkoj pri amo, precipe se temas pri maljunaj virinoj (ekz. La verko “Oomukomaĉi” temas pri la 90-jaraĝa Ononokomaĉi, kiu estis fama belulino kiam juna) la ĉeffiguro (maljunulino) kompreneble nek saltas nek kuradas sur la scenejo. Ĉiuj movoj estas malrapidaj. Mi supozas, ke la noo-verko, kiun Divivier spertis por la unua (kaj lasta ...) fojo estis, malbonŝance por li, tia verko.

Sed due, tro hasta estas la konkludo, ke noo estas teda pro tio, ke ĝi estas dormiga. Vere ĝi ofte estas dormiga, mi konfesas. Sed laŭ mia opinio ĝuste tiu fakto estas granda kaj unika ravo de noo! Jes, mi ne ŝercas. En noo-verkoj ofte aperas dioj aŭ spiritoj, kiuj al niaj okuloj ne videblas, aŭ sur scenejo prezentiĝas sceno de pasinteco, kiun la ĉeffiguro

rememoras en sia kapo. Ĉar en tiaj kazoj ne temas pri la “reala mondo”, kiun ordinaraj homaj okuloj povas percepti, oni eĉ povas diri, ke duondormante vidi estas la ĝusta maniero de noo-spektado. Vidante tiamaniere, la spektanto ne scias ĉu ŝi/li vere vidas diojn kaj ogrojn aŭ ĉu ŝi/li nur sonĝas. Kaj tio estas la kondiĉo por eniri en fantazian mondon. La dormiga malrapideco de movoj afable invitas vin al fantazia mondo. Do, kial ne ĉesi vanan rezistadon kontraŭ dormemo kaj simple sonĝeti iomete. Tiam vi mem iĝas parto de la fantazia mondo kaj la dioj kaj ogroj ne plu estas teatraj, sed realaj.

Mi certas. Se vi unufoje spertis tion – la “realan” renkontiĝon kun fantaziaj aŭ imagaj figuroj – la fascino de noo ne plu lasos vin kaj por vi ne ekzistus pli granda feliĉo ol esti kondamnata al kvinjara noo - spektado, kiel Duvivier proponis.

Aparta ĝuo estas spekti noo-n somere vespere en subĉiela teatrejo. Ĉi tiu movbildo estas parto de “Hagoromo”, unu el la plej famaj noo-verkoj, en kiu ĉiela ino (anĝelo) montras al fiŝisto ĉielan dancon. <https://www.youtube.com/watch?v=66TLQ5d8Ji8>

Ĉi tie videblas tute alispecaj verkoj, pri tragika heroo en japana historio, MINAMOTO no Yoŝicune. <https://www.youtube.com/watch?v=dgHkrtWP994>

(2020年3月15日「世界の文化欄」に掲載)



Beletra rubriko

Nokta Monteto

MISAŬA Seiiçirou

Mi skribis jene je la 16a de oktobro 2018.

Mi ŝatas montogrimpardon. Sed varmeĝo de tiu ĉi somero suferigis nin. Tial nokte mi iris al monteto volonte ioman malvarmecon. Komprenoble mi portis lampeton sur mia frunto. Kiam mi ekpaŝis, tuj pentego kaptis min. Ĉar tute senluma tenebro donis al mi grandan teruron. Mi deziris tuje returniĝi. Sed mi antaŭen paŝis persisteme.

Post unu horo mi atingis al la pinto de la monteto. Sur ĝi mi povis vidi lumetojn de malproksima urbo, kiun antaŭe mi fotis dumtage. Kaj mi iomete iris suben, tiam subite sonoj de fajraĵoj eksonis malproksime. “don don don” Tuj mi returniĝis kaj kuris kaj malproksime floroj de fajraĵoj bele disvastiĝis, falis, kaj malaperis. Lumetoj scintilis efemere. Mia koro vigle batis kun ekscito kaj ĝojo.

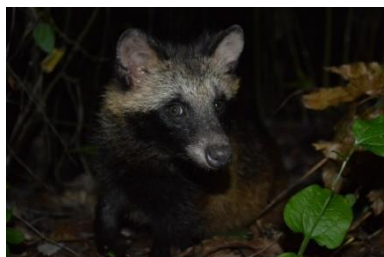


Post iom da tempo mi reiris suben kaj paŝis sur ebena vojo, tiam kvar oraj punktoj subite aperis !

Vulpo aŭ niktoreŭto ?

Du niktoreŭtoj, eble infanoj. Unu el du estis preskaŭ sentima kontraŭ

mi kaj malrapide proksimiĝis al mi. Eble li aŭ ŝi havis naivan scivolemon. Kiel aminda ! Multfoje mi fotis. Eble sonoj de fajraĵoj tiris ilin aŭ ili scivolis nekutimajn sonojn.



Malgranda aventuro donis al mi fajnan distraĵon. Mi dankis al nokta monteto. Gaje mi iris hejmen.

(2020年3月16日「文芸欄」に掲載)

Kiel maljunuloj vivos post emeritiĝo?

--- Ni komencu sekvan vivon de nun.

AKASI Humiko



kunveno
aŭskulti
karmemorajn
melodiojn



kuirado por
kristnaska/
jarfina
bankedo

La urbo Maçida situas kvardek kilometrojn okcidente for de la centro en Tokio, Japanio. Dum la evoluo de japana ekonomio multaj laborantoj venis kun familianoj en la urbo Maçida. Nun troviĝas kvarcent tridek mil homoj.

Mi prezentos, kiel mi vivas en la

kreskanta urbo.

Mi ekloĝis antaŭ 53 jaroj en la monteto, kiu situas trans la parko Serigaja (kun la muzeo pri gravulaĵoj) unu kilometron, nordokcidente for de la stacio Maĉida. En la tempo, kiam mi translokiĝis en Maĉida, oni komencis ekspluati la teron de Maĉida, inkluzive de la kvartalo de mia domo sur la monteto kun sakuroj kaj arbetoj. Homoj ekloĝis iom post iom ĉirkaŭe de mia domo. La loĝantoj fondis 'Komunumon de loĝantoj' por vivi kunhelpante en aprilo 1999.

Nun oni trovas ducent hejmojn kaj kvincent loĝantojn en ĝi. Dum jaroj kelkaj el la unuaj familioj transdonis sian domon al sia filo/filino, aŭ translokiĝis, aŭ forpasis. Poste novaj familioj venis kaj membriĝis al la Komunumo. Intertempe kreskiĝis infanoj, kiujn zorgis edzino, kaj emeritiĝis edzoj. Pro tio loĝantoj havigis al si liberan tempon por ĝui sin mem.

Kelkaj emeritoj en nia komunumo proponis al la loĝantoj, ke ĝi fondu klubon por ebligi al la maljunuloj ĝui sanajn kaj vivplenajn tagojn. Post la interkonsiliĝo oni starigis la klubon, nomatan 'Klubo por Aktivontaj Grandaĝuloj'. Oni faris regulon, ekzemple loĝantoj espereble pli ol 50 jarojn aĝa, laŭvole rajtas aliĝi al la klubo persone, kaj la kotizo estas cent jenoj monate. Oni elektis la komitatanojn kaj ili organizis jenajn klubojn.

La komitatanoj organizis diversajn aktivadojn. Inter ili estas distraj kunvenoj, unutagaj ekskursoj per aŭtobuso, servoj en publikaj lokoj kaj konsolaj vizitoj al maljunulejoj. La komitatanoj de la Klubo ankaŭ eldonas novaĵleteron kun anoncoj kaj raportoj pri okazaĵoj en la klubo. Mi

tre fieras pri ĝia enhavo kaj eldonado ĉiumonata. Nun mi tre bedaŭras, ke oni eldonas ĝin unu fojon en ĉiu dua monato.

.....

Listo de kluboj

- * ĝenerala kunsido en aprilo
- * tuttaga ekskurso per buso en printempo aŭ aŭtuno
- * festo por ĝui plenan lunon en aŭtuno (sinjoroj kuiras ĉefan manĝon, kolokasian sukono)
- * kristnaska kaj jarfina bankedo en decembro (sinjorinoj kuiras frandaĵojn)
- La servado por socia aktivado (laŭvole)
- * purigo de la kunvenejo kun ĉirkaŭa loko du fojojn monate
- * festo por supermaljunuloj unu fojon jare
- * koruso du fojojn monate La grupo prezentas kantojn en la ŝintoa sanktejo kaj en maljunulejo
- Por ĝui pli bonan ĉiutagan vivon
- * trinkado de japana teo en la unua lundo ĉiumonate
- * karaoke en la kvara sabato ĉiumonate
- * babilado kaj aŭskultado kun la klarigo pri karmemoraj melodioj
- * recitado de japana aŭ ĉina poemo du fojojn monate
- * goludo tri fojojn monate
- * piedvojaĝo unu fojon monate
- * spektadoj de filmo kaj artaĵo kvar fojojn jare
- * aŭsklutado de Rakugo (amuziga rakontado tradicia en Japanio) unu fojon jare
- Por konservi sanon
- * jogo, ĉina gimnastiko, radiogimnastiko

.....

Tiuj, kiuj havas kompetentecon pri ĉiu kunveno, volonte utiligas sian

altan scion por la aliaj membroj. Kaj la administraj aferoj de la kunsidoj glate iras kun la penado de la organizantoj kaj kunlaboro de la partoprenantoj.

Hodiaŭ, la komunumo de la loĝantoj trovas la problemon pro pli maljunuliĝo, aŭ malsaniĝo eĉ forpasoj kaj translokiĝoj de la membroj dum dudek jaroj. Nun estas la tempo diskuti, ĉu ni povos daŭrigi la agadon de la Klubo de la loĝantoj.

Kompoŝto farita en kartono

TORII Fusako



kartona
kompoŝtujo



legomoj faritaj
per kompoŝto
en kartono

Nun diversaj rubaĵoj multiĝas tra la mondo. Do, en la urbo Maĉida, Japanio, kie mi loĝas, la loka registaro delonge okazigas projekton malmultiĝi rubojn, plastan, paperan kaj tiel plu. Unu el ruboj estas kuireja rubo el hejmo. La loka registaro kelkfojojn jare alvokas al la civitanoj, ke ili kunlaboru kun ĝi en la projekto. Responde al ĝi mi aliĝis al la projekto lastjare.

La organizanto gvidas uzmanieron de kompoŝtujo farita el kartono.

Aliĝintoj senpage ricevas de la urbo ondokartonan skatolon kaj bazajn materialojn, nome, eretojn de ligno, bambuo kaj rizobranon.

Laŭ la gvido de la organizanto mi enmetas kuirejajn rubojn (nemanĝeblaĵoj, manĝorestaĵoj de legomoj) en la kompoŝtujon kun la bazaj materialoj por fermentigi. Mi dispecigas erojn de legomoj por pli rapidigi fermentadon uzante elektran tranĉilon malnovan. Mi lasas ĝin dum tri monatoj, por ke la kuireja rubo fariĝu kompoŝto. Ĝi fariĝos pli bonkvalita post plu unu monato. Poste mi donas ĝin en flor- kaj legombedo de plasta kesto aŭ ĝardeno kiel sterkaĵo.

Dum la laboro mi sciis, kiel fari bonkvalitan kompoŝton el kuireja rubo. La fermentado bone kaj vigle iras, se la temperaturo de kompoŝtujo normale atingas apenaŭ 40 gradojn celsie (malofte 50 gradojn). Rimarkinte la temperaturon je 50 gradoj en la kompoŝtujo, mi enmetas kuirejan rubon en ĝin kun la sama ĝojo, kvazaŭ mi donus manĝaĵon al mia dorlotbesto. Kiam mi rimarkas malaltan temperaturon en la kompoŝtujo, mi aldonas iom da akvo, oleo aŭ elmetas rubon al sunradio. Mi tiel klopodas por fari bonkvalitan kompoŝton.

Fine mi uzas duonon de maturiĝintan kompoŝton por fari sekvontan kompoŝton. Vidante bonkvalitan kompoŝton kaj miksante ĝin kun tero, mi ĝojas la ideon, kiujn florojn mi plantu en ĉi-jaro.



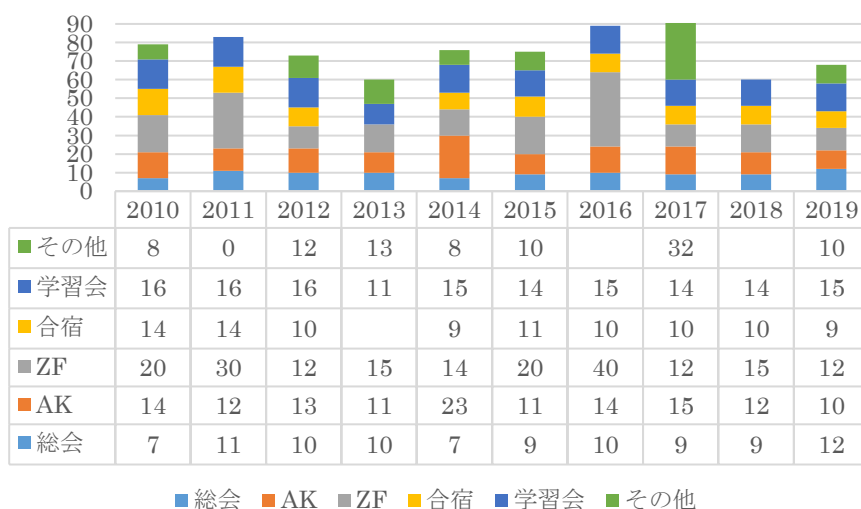
活動の推移

この10年間に、総会のほか学習会、AMUZA KUNVENO、ザメンホフ祭、合宿を毎年継続して開催し、国内外から延べ31人の方に講師として各事業に参加していただきました。また、機関誌「AMEBRIETO」を発行し、2012年には、ホームページを開設しました。

そのほか、世界大会、日本大会、セミナーなど他の団体が主催する行事にも参加し、エスペラントでの交流を図ってきました。

2019年12月末現在の会員は20人ですが、半数の10人は、2010年以降に加入しています。いろいろな事情で退会された方も含め、この10年間に32人が会員となり、役員、事務局をはじめ会費を納める会員の協力によって定期的に事業を開催してきました。

事業別参加人数の推移



講師として参加していただいたお客様（五十音、アルファベット順） <敬称略>

相田清（2016.合宿）、青山徹（2011. 2014.合宿）、石川一也（2010.合宿）
 石野良夫（2018.ZF）、岩谷満（2011.AK）、大庭篤夫（2017.合宿）
 ○○○○、○○○（2017.AK）、北川久（2015.ZF）、土居智江子（2019.ZF）
 春遍雀來（2013.ZF）、引田秋生（2015.合宿）、藤巻謙一（2018.合宿）
 堀泰雄（2017.ZF）、望月正弘（2012.合宿）、山川修一（2019.AK）
 山川節子（2014.ZF）、Gluco G・Pompilio（2012.ZF）、Jonilo Nguyen（2016.AK）
 Markus Gabor（2013.AK）、Martine、Max Demouy（2014.AK、2019.合宿）
 Mireille Grosjean（2012.AK）、NOSS Christoph、明子（2010.ZF）、Pawel Sikorski
 （2015.AK）、Ran（2018.AK）、ZAKIROV SALIKH（2010.AK）

火曜日の学習会

毎週火曜日、10:00～11:30、芹ヶ谷公園の一面にある「ひだまり荘」で行っている学習会は、会話、歌、作文、輪読と短い時間に盛りだくさんの内容になっています。

10分間、エスペラントで話をするところから始めていましたが、話したい内容に単語力がついていかず、途中から日本語のおしゃべりになっています。続いて、エスペラントの歌をパートに分けて2部合唱し、練習した歌を AMUZA KUNVENO など披露しています。

第2週は、“La Revuo Orienta”の「やさしい作文」と「Krucvorto」を解いて、答を JEI に応募しています。

その他の週は、エスペラントの本を全員で音読した後、一人が訳してから内容に沿ってエスペラントで質問し、他の人たちが答える方法で進めています。

その他、2012年は「Mil unuaj vortoj en Esperanto」(絵本)を、2013年から「Amuza Legolibro en Esperanto」(小話集)を読み、K-vortojを使った質問の練習を、2015年からは、沖田和海さんのホームページに掲載された「Lasta Novaĵo de Japanio」と「Sezonvortoj en Japanio」を読んで、季節のことばや今話題になっている言葉のエスペラン語の参考に使っています。

<学習会で使用した本>

- 2010 Vojaĝo kun Katrina
- 2011 Katrina Malfruas
- 2012～2013 KION AJN
Mil unuaj vortoj en Esperanto
- 2013～2014 Ivan la malsaĝulo
Amuza Legolibro en Esperanto
- 2014～2015 La ĝemelaj Steloj
- 2015～2017 Cikatro de Amo
- 2017～2019 GEMVERKOJ de Higuĉi Iĉijou
- 2019～ Amo kaj malamo

<参加者>(五十音順)

明石、柿谷(～'16)、河合、久場、クーヴェ('14～'15)、三文字(～'12)、鳥居('14～)、永木('11～)、山本('15)

土曜日の学習会

毎週土曜日、初級講座との関係で時間に変更になったこともありますが、14:00～16:30 に町田市生涯学習センターで行っている学習会では、前半は、情報交換を行い、後半にエスペラントの本を輪読しています。

また、事業の企画や運営についての打合せの場にもなっています。

<学習会で使用した本>

- 2010 Kie boacoj vagadas
- 2010～2011 MONDO DE TRAVIVAĴOJ
- 2012～2013 LA ŜTONA URBO
- 2013～2015 Vojaĝo en Esperanto-Lando
- 2015～2016 Paradizo ŝtelita
- 2017 IDOJ DE LA IMPERIO
- 2017～2018 Ĉirkaŭ la mondo dum okdek tagoj
- 2018～2019 TAMEN ĜI MOVIĜAS !
- 2019～ Faktoj kaj Fantazioj

<参加者>(五十音順)

明石(～'15)、上農、桐山('15～)、クーヴェ('16～)、永木、早川、原田('12)、広重('11～'12)、実沢('11～)、山本



月2回の学習会

厚木市生涯学習講座の講師をしていた小山さんからの要請を受けて、2016年から修了者2名を対象とした学習会を、毎月2回、13:30～15:00、町田市生涯学習センターで行っています。

学習会では、初級から中級への実力をめざして、エスペラントの本を読みながら基本的な発音、文法の習得と会話の練習をしています。

<学習会で使用した本>

2016～2019 Kumeŭaŭa
2017～2019 Ivan la malsaĝulo、
エスペラント会話教室
2019～ La Unua kursolibro

<参加者>(五十音順)

講師:上農(~ '19.7)、桐山('19.10~)
受講:金子、渡辺

入門・初級講習会

個別に問い合わせのあった希望者と会員を対象に入門講習会及び初級講習会を毎週土曜日に町田市生涯学習センターで開催しました。

■ 2010年(講師:上農)

- ①入門講座 13:30～14:30
受講 1人
教材:エスペラント四週間、
La Unua kursolibro
- ②初級講座 14:45～16:00
受講 3人(上田、小川、広重)
教材: Monatoj tra la mondo、
エスペラント会話教室

- 2011年(講師:上農)
初級講座 14:00～16:00
受講 2人(小川、広重)
教材: Monatoj tra la mondo、
エスペラント会話教室
- 2012年 1月～3月(講師:上農)
初級講座 14:00～15:30
受講 1人(丁野)
教材: Esperanto per rekta metodo
- 2014年(講師:上農)
初級講座 13:30～14:30
受講 1人(一ノ瀬)
教材: La Unua kursolibro

可能性を求めて

退職を機にエスペラント学習会の講師を引き受けた。ほぼ個別指導で行ってきた。参加者が始めた動機はそれぞれであったが、ほぼ全員がエスペラントで話せるようになりたい、という目標を持っていた。私はその目標が達成されるように頑張ってきた。今、反省することは講習会の参加者にエスペラントで会話がしたいという初めの強い願いを持ち続けさせることができなかったことだ。エスペラントは自然言語より簡単に学べると考えがちだが、その学習にかかる時間は必要だ。だから、参加者が学習会に続けて参加することが大切だ。そのためには参加者が楽しむ時間がなければ次の時間につながらない。そのための教材作りとエスペラントに関する知識が講師に要求されると考える。

(上農 百合子)

国際共通語 エスペラント
を始めてみませんか! 町田エスペラント会

声をかけてください マンツーマンの講習もOKです

日時	毎週土曜日 14時～16時半
場所	町田市原町田6-8-1 生涯学習センター (町田レミィ6Fまたは7Fテーブル席)
目印	テーブルの上の★が目印です 4～5人でおしゃべりします
連絡	町田エスペラント会 amebrieto@gmail.com



AMUZA KUNVENO

参加者でエスペラント語を楽しむ会を毎年6月(2012年は7月、2014年は4月)に開催しました。

■第21回 2010年

6月12日(土) 13:30~16:45
せりがや会館

講演「エスペラントを楽しもう」(サリフ) = 手持ちの情報を基に質問しながら行う「親族探し」「部屋当てクイズ」「持ち物当てクイズ」「ドライブゲーム」他、
オカリナ演奏(明石、柿谷、久場)、輪唱「Donu al ni vian pacon」
終了後、「謝朋殿」で食事会
Gasto :s-ro ZAKIROV SALIKH (ロシア)

参加者: 明石、上田、上農、柿谷、河合、木島、久場、永木、小柳(藤沢)、佐野(藤沢)、宮永(藤沢)、氏家(川崎市)、米山(小田原市)

■第22回 2011年

6月11日(土) 13:30~16:45
せりがや会館

講演「エスペラントで話すために~会話力を高めよう」(岩谷) = 1部:エスペラントが上手になるために、2部:「Gerda malaperis」のCDを使って聞き取り練習
終了後、韓国料理「チェゴヤ」で食事会
Gasto: s-ro 岩谷 満(横浜エスペラント会)

参加者: 明石、上農、柿谷、河合、久場、三文字、永木、広重、森田、山本、米山(小田原市)

■第23回 2012年

7月10日(火) 13:30~16:45
せりがや会館

講演「エスペラントを楽しもう」(ミレイユ) = 1部:会話練習、2部:世界大会参加者のメッセージを映像で流し、各国の発音の特徴について解説、歌
終了後、「シェ・ブルミエ」で食事会
Gasto: s-ino Mireille Grosjean (スイス)

参加者: 明石、上農、柿谷、河合、木島、久場、佐藤、永木、広重、山本、吉岡、木谷(鳴門)

■第24回 2013年

6月8日(土) 13:30~16:45
まちだ中央公民館

講演「Utileco de Esperanto en mia vivo kaj en mia studado de japana ekonomio」(ガーボル)、
歌、クイズ(永木)
終了後、「南国酒家」で食事会
Gasto: s-ro Markus Gabor (ハンガリー)

参加者: 明石、上農、柿谷、河合、木島、久場、永木、早川、山本、米山

■第25回 2014年

4月5日(土) 13:30~16:45
まちだ中央公民館

講演「ペリゲー、リールについて」(マルティン)、
オカリナ演奏(明石、柿谷、久場、鳥居)、歌
終了後、「シェ・ブルミエ」で食事会
Gastoj: ges-roj Martine Demouy、Max Demouy (フランス)

参加者: 明石、一ノ瀬、上農、柿谷、梶原、河合、木島、久場、佐藤、鳥居、永木、早川、山本、他8人



■第26回 2015年

6月6日(土) 13:30~16:45
まちだ中央公民館

講演「仕事と関心事」(パウロ)、
歌、オカリナ演奏、ビンゴ
終了後、「シェ・ブルミエ」で食事会
Gasto: s-ro Pawel Sikorski
(ポーランド)

参加者:明石、上農、河合、木島、久場、
鳥居、永木、早川、山本、クーヴェ(川崎市)
oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

■第27回 2016年

6月4日(土) 13:30~16:45
町田市生涯学習センター

講演「ベトナムについて」(ジョン)、
オカリナ演奏(明石、柿谷、久場、鳥居)、
歌、ビンゴ(永木)
終了後、「シェ・ブルミエ」で食事会
Gasto: s-ro Jonilo Nguyen (ベトナム)

参加者:明石、上農、河合、桐山、久場、
クーヴェ、永木、早川、米山、
渡辺(厚木市)、Phường (ベトナム)、他2人
oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

■第28回 2017年

6月3日(土) 13:30~16:45
町田市生涯学習センター

講演「エスペラントとの関りについて」
(川端夫妻)、
参加者の住んでいる町紹介、オカリ
ナ演奏(明石、久場、鳥居)、歌、単語当
てクイズ(クーヴェ)
終了後、「シェ・ブルミエ」で食事会
Gastoj: ges-roj KAWABATA

参加者:明石、上農、河合、木島、桐山、
久場、クーヴェ、鳥居、永木、山本、米山、
他2人

■第29回 2018年

6月2日(土) 13:30~16:00
町田市生涯学習センター

講演「エスペラントで体験したこと」
(ラン)、
オカリナ演奏(明石、久場、鳥居)、歌
終了後、公民館カフェでお茶会
Gasto: s-ro Ran (イスラエル)

参加者:明石、上農、河合、桐山、久場、
クーヴェ、鳥居、永木、実沢、山本、米山
oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

■第30回 2019年

6月1日(土) 13:30~16:45
町田市生涯学習センター

講演「私の東海道ウォーク」(山川)
参加者のウォーキング紹介、オカリナ
演奏(明石、鳥居)、歌、アナグラムクイズ
(クーヴェ)
終了後、「シェ・ブルミエ」で食事会
Gasto: s-ro 山川 修一 (東京)

参加者:明石、上農、河合、桐山、
クーヴェ、鳥居、永木、山本、渡辺
oooooooooooooooooooooooooooooooooooo



2014年 4月 第25回 AK

ザメンホフ祭

エスペラント語を作ったザメンホフ博士の誕生日(12月15日)に合わせて町田エスペラント会主催のザメンホフ祭を毎年12月に開催しました。

2011年、2013年、2016年は講演会を一般公開しました。

■第19回 2010年

12月11日(土) 13:30~16:45
町田市市民文学館ことばらんど

講演「ドイツの人々の暮らし」(ノス夫妻)、
オカリナ演奏(明石、柿谷、久場)、歌、物
語(木村、学生たち)、問題解き(上農)、
10の法則(永木)、ビンゴ

終了後、町田モディ内「咲くら」で忘年会

Gastoj: Familio Noss Christoph、
明子、Emilia 万柚子(ドイツ)

参加者: 明石、上農、柿谷、河合、木島、
木村、久場、三文字、永木、広重、山本、
吉岡(川崎市)、学生5人、森田(忘年会のみ)

■第20回 2011年

12月11日(日) 13:30~16:45
まちだ中央公民館

前半 参加者自己紹介、歌
後半(14:45~) 公開講演「原発と英語
—現代文明への問い」(木村護郎クリスト
フ) = 原発と英語の問題点・対策の類似性を
挙げ、原発依存、英語依存からの脱却に向け
た具体的な取り組み例を紹介。後日、講演内
容をCDにして希望者に実費で配布。

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

参加者: 明石、上農、大西、柿谷、河合、
木島、木村、久場、三文字、永木、早川、
広重、実沢、森田、山本、吉岡、
小山(厚木市)、丁野(町田市)、鳥居(町田市)、
村田(渋谷区)、講演会参加 10人

■第21回 2012年

12月1日(土) 13:30~16:45
まちだ中央公民館

講演「私のエスペラント人生」
(ボンピリオ)、
オカリナ演奏(明石、柿谷、久場)、歌、
本の販売(売上 2600円)

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

Gasto: s-ro Glauco G・Pompilio (横浜)

参加者: 明石、上農、柿谷、河合、久場、
永木、早川、山本、米山、
小林(八王子市)、村田(渋谷区)

■第22回 2013年

12月7日(土) 9:30~12:00
せりがや会館

前半 話し合い = ドイツから帰国した木村
副会長の研究を基に「言語の働きについて」
後半 公開講演「海外旅行を活かして
外国語を身につける喜び」(春遍雀來) =
語学学習の秘訣について講話後、ケーナ演奏

終了後、「南国酒家」で忘年会

Gasto: s-ro 春遍 雀來 (埼玉)

参加者: 明石、上農、柿谷、河合、木島、
木村、久場、永木、早川、山本、
講演会参加4人

■第23回 2014年

12月6日(土) 13:30~16:45
まちだ中央公民館

講演「パノラマメトドとは」「性と平等」
(山川) = 初めてエスペラントを目にした設定で
教材を基に演習を実施、
オカリナ演奏(明石、柿谷、久場、鳥居)、
歌、唐丹基金活動紹介(永木)

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

Gasto: s-ino 山川 節子 (東京)

参加者: 明石、一ノ瀬、上農、柿谷、河合、
木島、久場、鳥居、永木、早川、山本、

米山、クーヴェ(川崎市)

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

■第24回 2015年

12月5日(土) 13:30~16:45

まちだ中央公民館

講演「ザメンホフの“人類という夢”—エスペラント創案者の思想的軌跡」(北川)、オカリナ演奏(明石、柿谷、久場、鳥居)、歌、単語当てクイズ(永木)

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

Gasto:s-ro 北川 久 (川崎エスペラント会)

参加者:明石、上農、柿谷、河合、木島、木村、桐山、久場、鳥居、永木、早川、山本、米山、

クーヴェ(川崎市)、大庭(TEK)、川崎エス会4人

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

■第25回 2016年

12月3日(土) 14:30~17:45

町田市生涯学習センター

前半 諸大会参加報告<近江八幡・日本大会(桐山)、泉州・アジア大会(山本)、ILEI 東アジアセミナー(上農)>、オカリナ演奏(明石、久場、鳥居)、歌後半(16:00~)公開講演「外国語との賢いつきあい方の秘訣」(木村護郎クリストフ)

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

参加者:明石、上農、柿谷、木島、木村、桐山、久場、クーヴェ、鳥居、永木、原田、早川、山本、米山、

講演会参加26人

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

■第26回 2017年

12月9日(土) 13:30~16:45

町田市生涯学習センター

講演「ホマラニスモと恩送り」(堀)、参加者発表<大阪の印象(桐山)、筋肉体操(永木)、ゲーム作り(クーヴェ)、寒冷化対策他(早川)、放送大学(山本)>、オカリナ演奏(明石、久場、鳥居)、歌、単語当てクイズ(クーヴェ、上農)

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

Gasto:s-ro 堀 泰雄(群馬エスペラント会)

参加者:明石、上農、河合、桐山、久場、クーヴェ、鳥居、永木、早川、山本、金子(厚木市)

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

■第27回 2018年

12月1日(土) 13:30~16:45

町田市生涯学習センター

講演「伊東幹治 “ザメンホフをなぞった男” ito kanzi, kiu sekvis Ludovikon」本の紹介(石野)、

オカリナ演奏(明石、久場、鳥居)、歌

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

Gasto:s-ro 石野 良夫

(新宿エスペラント会)

参加者:明石、上農、金子、木島、桐山、久場、クーヴェ、鳥居、永木、原田、山本、渡辺、

大庭(TEK)、萱原(横浜)

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

■第28回 2019年

12月7日(土) 13:30~16:45

原町田三丁目会館

講演 「エスペラントと私」(土居)、オカリナ演奏(明石、鳥居)、ビンゴ(永木)

終了後、「シェ・ブルミエ」で忘年会

Gasto:s-ino 土居 智江子

(NPO 法人エスペラントよこはま)

参加者:明石、上農、木島、桐山、久場、鳥居、永木、早川、山本、DOI(横浜)、萱原(横浜)

八ヶ岳合宿

八ヶ岳エスペラント館の利用拡大への貢献の意味も込めて、台風の影響で中止になった2013年を除いて毎年実施しました。

■第2回 2010年

9月19日(日)～20日(月・祝)

1日目

講演「“Alaska Stafeto-アラスカ駅伝”との出会いとエスペラント翻訳について」(石川)、

参加者体験報告<ハバナ世界大会(久場、広重)、救急搬送(木島)、スカイプ(上農)、エスペラント漬け合宿(山本)、女性センター(永木)、朝の体操(明石)、俳句(柿谷)、E再開(大西)、夏の過ごし方(三文字)>、

オカリナ演奏、歌、夜のお楽しみ会

2日目

八ヶ岳周辺散策(案内:柿谷)

野辺山駅→JR 鉄道最高地点→滝沢牧場→八ヶ岳高原ロッジ

Gasto:s-ro 石川 一也
(掛川エスペラント会)

参加者:明石、上農、大西、柿谷、木島、久場、三文字、高垣、永木、広重、山本、米山(小田原市)、石川ふさ子(掛川)



■第3回 2011年

9月18日(日)～19日(月・祝)

1日目

講演「エスペラントでの会話上達法」(青山) = テレビ画面を使って、世界大会の写真を見ながらエスペラントで説明する練習、参加者体験報告<コペンハーゲン世界大会(久場、山本、明石、永木、上農)、エスペラント漬け合宿(広重)>、オカリナ演奏(明石、柿谷、久場)、歌、夜のお楽しみ会

2日目

川俣溪谷ハイキング(案内:柿谷)

Gasto:s-ro 青山 徹
(練馬エスペラント会)

参加者:明石、上農、大西、柿谷、木島、久場、永木、広重、米山、山本、高田(練馬)、中村(練馬)、山田(練馬)

■第4回 2012年

9月16日(日)～17日(月・祝)

1日目

講演「私のエスペラント人生」(望月) = 徳田六郎氏について 15 のエピソード、参加者体験報告<読書大相撲(広重)、青春切符(柿谷)、ハノイ世界大会(山本)、夏の軽井沢(明石)、奈良井宿(米山)、夏の出来事(木島)、アオザイ(永木)、ILEI(上農)、夏の過ごし方(久場)>、オカリナ演奏(明石、柿谷、久場)、歌、夜のお楽しみ会

2日目

信玄棒道ハイキング(案内:永木)

Gasto:s-ro 望月 正弘
(静岡エスペラントクルーボ)

参加者:明石、上農、柿谷、木島、久場、永木、広重、米山、山本

■第5回 2014年

9月20日(土) ~21日(日)

1日目

講演「日本語学習ボランティア活動を通して」(青山) = 写真から想像を掻き立て自由に話す練習、

参加者体験報告<趣味のフルーツと合唱(久場)、合唱団演奏会(柿谷)、クローチア他周遊の旅(明石)、読書大相撲(山本)、花子とアン(永木)、東北被災地訪問(上農)、テニス観戦旅行(木島)、火曜学習会(鳥居)>、

オカリナ演奏(明石、柿谷、久場、鳥居)、歌、フルーツ演奏(久場)、夜のお楽しみ会

2日目

美しの森ハイキング(案内:永木)

Gasto:s-ro 青山 徹
(練馬エスペラント会)

参加者:明石、上農、柿谷、木島、久場、鳥居、永木、山本



■第6回 2015年

9月5日(土)~6日(日)

1日目

講演「私のエスペラント学習体験」(引田)

参加者体験報告<リール世界大会>、オカリナ演奏(明石、柿谷、久場、鳥居)、歌、夜のお楽しみ会、スカイプで会話(岐阜の藤本日出子さん)

2日目 (天候不良により散策中止)

第100回 UK 写真、歌、おしゃべり

Gasto:s-ro 引田 秋生
(山梨エスペラント会)

参加者:明石、上農、柿谷、木島、桐山、久場、鳥居、永木、山本、米山

oo

■第7回 2016年

9月10日(土) ~11日(日)

1日目

講演「エスペラントと私」(相田)、参加者体験報告<私の一日(明石)、ロシア旅行(米山)、カナダ旅行(鳥居)、近況(木島、桐山)、RH(山本)、ピースボートの旅(永木)、ニトラ世界大会(久場、上農)>、

オカリナ演奏(明石、久場、鳥居)、歌、夜のお楽しみ会、スカイプで会話(フランスのマルティンさんと)

2日目

えほん村見学

Gasto:s-ro 相田 清
(NPO 法人エスペラントよこはま)

参加者:明石、上農、木島、桐山、久場、鳥居、永木、山本、米山



■第8回 2017年

9月9日(土)～10日(日)

1 日目

講演「エスペラントを上達させる方法 Ooba-metodo について」(大庭)、
参加者体験報告<読書(久場)、50回
東京大会の思い出(木島)、自己紹介
(桐山)、読書大相撲(上農)、下関 E 図書館
(山本)、ソウル世界大会(永木)、スイス
旅行(米山)、ラジオで聞いた話(鳥居)、
ボヤキ(明石) >、
オカリナ演奏 (明石、鳥居)、歌、夜のお
楽しみ会

2 日目

八ヶ岳リードオルガン美術館見学
Gasto: s-ro 大庭 篤夫
(東京エスペラントクラブ)

参加者: 明石、上農、木島、桐山、久場、
鳥居、永木、山本、米山

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

■第9回 2018年

9月1日(土)～2日(日)

1 日目

講演「エスペラント会話のコツ～あなたもすぐに話すことができる」(藤巻) =
「Ekzercoj de Zamenhof - ザメンホフのエスペ
ラント基礎文例集」及び「関係詞」(講師作成)
をテキストにした演習、
参加者体験報告<リスボン世界大会
(山本、萱原、永木)、マドリッド ILEI(上農)、
タイ旅行(桐山) >、
歌、フルート・オカリナ・リコーダー演
奏(久場)、夜のお楽しみ会

2 日目 (天候不良により遠足中止)

藤巻氏による学習指導、UK 写真
Gasto: s-ro 藤巻 謙一
(沼津エスペラント会)

参加者: 上農、金子、木島、桐山、久場、
永木、山本、米山、萱原(横浜)

oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

■第10回 2019年

9月20日(金)～21日(土)

1 日目

講師による体験授業(マルティン) = ベリグ
ーでのエスペラント指導法を使った会話練習、
参加者体験報告<お好み焼き(山本)、
純烈コンサート(永木)、趣味(鳥居)、
ズーム(上農)、ラグビーW杯(桐山) >、
歌、オカリナ演奏(明石、鳥居)、夜のお
楽しみ会

2 日目 (天候不良により遠足中止)

話し合い(30周年記念事業)、ビンゴ(永木)
Gastoj: ges-roj Martine Demouy、
Max Demouy (フランス)

参加者: 明石、上農、木島、桐山、鳥居、
永木、山本



八ヶ岳エスペラント館 2019年

外国人との交流

この10年間に、来日した外国人エスペランチストとの交流会を7回開催したほか、AMUZA KUNVENO やザメンホフ祭に招いて、エスペラント語で話したり聞いたりする機会を積極的に持ってきました。

2019年には、フランスのデュモイ夫妻が八ヶ岳合宿に参加し1泊2日を共に過ごしました。

10年間に延べ22人の外国人が町田エスペラント会を訪れ、メッセージを書いていたいているサイン帳も3冊になりました。



年	月	活動内容	ゲスト(敬称略)
2010	6	AMUZA KUNVENO	ZAKIROV SALIKH (ロシア)
	12	ザメンホフ祭	Noss Christoph、Noss 明子 (ドイツ)
2012	6	外国人との交流会	Bharat Ghimire (ネパール)
	7	AMUZA KUNVENO	Mireille Grosjean (Mirejo) (スイス)
	12	ザメンホフ祭	Glauco G・Pompilio (横浜市)
2013	4	AMUZA KUNVENO	Markus Gabor (ハンガリー)
	10	外国人との交流会	An Jin-sim (韓国)
	12	ザメンホフ祭	春遍雀來 (ハルペン・ジャック)(新座市)
2014	4	AMUZA KUNVENO	Martine DEMOUY, Max DEMOUY (フランス)
	8	外国人との交流会	Christine Raiffaud, Sylvia (フランス)
2015	6	AMUZA KUNVENO	Pawel Sikorski (ポーランド)
	10	外国人との交流会	Reza Pahlevi (インドネシア)
2016	6	AMUZA KUNVENO	Jonilo Nguyen (Jon) (ベトナム)
2017	5	外国人との交流会	KIM Onnuri (Onia) (韓国)
	6	AMUZA KUNVENO	〇〇〇〇〇, 〇〇〇〇〇(スウェーデン)
	10	外国人との交流会	Ronald Schindler (ドイツ)
2018	6	AMUZA KUNVENO	Ran (イスラエル)
2019	9	八ヶ岳合宿	Martine DEMOUY, Max DEMOUY (フランス)
	10	外国人との交流会	Martine DEMOUY, Max DEMOUY (フランス)

機関誌の発行

年6回定期的にB5版4～8ページの機関誌を発行しました。

行事のお知らせとその結果報告のほか、新入会員自己紹介を掲載し、会の活動状況を伝えるとともに会員をつなぐ情報誌としての役割を果たしています。

東日本大震災が起きた2011年の122号には、会員に送られてきた海外からのメッセージを、161号には柿谷さんへの追悼文を掲載しました。

新入会員自己紹介の掲載は次のとおりです。

- 121号(2011年3月)広重、山本
- 122号(同5月)木村
- 125号(同11月)実沢、米山
- 140号(2014年5月)鳥居
- 148号(2015年9月)桐山
- 156号(2017年1月)Couvez
- 164号(2018年5月)金子、渡辺

歴代編集委員

- 上農 勝弘(1990年)
- 藤本日出子(1991～1993年)
- 辻 慶子(1991～1994年)
- 永木 正子(1991年～)
- 小山 政子(1993～2000年)
- 柿谷 功(2011～2017年)
- 早川 吉則(2011年～)

<印刷・発行担当>

- 佐藤 利子(2001～2004年)
- 明石英美子(2001年～)
- 河合計井子(2001年～)

機関誌名 AMEBRIETO (am/ebri/et/o)は、JULIO BAGHYの詩“Kronoj kaj kateno”から拝借したものです(3号)。



La organo ‘Amebrieto’

ueno yuriko

Ĉu vi memoras, ke la nomo de nia organo ‘Amebrieto’ venas de la vorto el la poemo de Julio Baghy? Okaze de la tridek jara datreveno de la fondiĝo de Esperanto-klubo de Maçida mi deponis la unuajn organojn ‘Amebrieto’-j al la oficejo JEI. La nomo unue aperis sur la kovrilo de la organo de Jamato Esperanto-Societo.

Jam pasis dudek jaroj, de kiam s-ro Ueno, kiu nomis la organon ‘Amebrieto’, forpasis en 2000. Dum sia tuta vivo li konservis ĝin tiel zorge, ke mi ne povis lasi en mia hejmo. Do, mi petis, ke la oficejo JEI konservu ilin (kiam la tiamaj membroj de Maçida fondis la Esperanto-klubon de Maçida kune kun ‘Rondo ajn’ en 1990, oni komencis sendi nian organon al JEI. Do, oni trovas la organojn ekde la jaro 1990 en JEI). Mi foliumis kelkajn numerojn, antaŭ ol sendi ilin. Mi trovis la nomojn de malnovaj membroj, s-roj Oonisi, Takagaki kaj sinoj Nagaki, Suganuma kaj Ŭatari, kiu tinkturis kaj kudris verdan standardon por la klubo de Jamato, kaj rimarkis iliajn skribaĵojn, al kiuj skribintoj penis allogi legantojn.

Daŭris 50 jarojn (inkluzivas 20 jarojn de eldonado de *Jamato Esperanto-Societo) eldonado de la organo ‘Amebrieto’ ĉiukvarmonata

(kvankam la eldonado haltis pro la maldiligenta tiama redaktoro dum kelkaj jaroj) dank' al la membroj kaj precipe redaktoroj ĝis nunaj.

Daŭran sukceson al ĉiuj!

Se vi havos ŝancon viziti la oficejon JEI, mi rekomendas al vi, novaj membroj rigardi la malnovajn organojn.

* Jamato Esperanto-Societo translokis la sidejon de la urbo Jamato al Maçida. Poste la membroj ŝanĝis la nomon Jamato Esperanto-Societo al Esperanto-klubo de Maçida en 1983.

その他の事業

■2010年

3月 20周年記念誌発行
B5版 35ページ



■2011年

4月 メーリングリスト作成

■2012年

4月 ホームページ開設

<https://amebrieto.jimdofree.com/>

■2013年

体験報告会(ハケ岳合宿の代わりに実施)

9月24日(火) 10:00~12:00

ひだまり荘

体験報告<ドイツの教会で合唱(久場)、ハケ岳 E 館当直体験(柿谷)、これからクラブ(明石)、暑い夏の過ごし方(河合)、エスペラント漬け合宿(米山、永木)、読み・聴き・しゃべる毎日(上農)>
ビンゴゲーム(上農)

参加者:明石、上農、柿谷、河合、久場、永木、米山



■2017年

エスペラント映面上映会

(世界同日上映の呼びかけに応じて実施)

10月21日(土) 10:00~12:00

せりがや会館

上映/Plena Rondo 一言語の壁を越えて
解説/木村護郎クリストフ

参加者:明石、上農、木島、木村、桐山、久場、鳥居、永木、原田、非会員9人



各種行事への参加

世界エスペラント大会を始め、アジア大会、日本大会、関東・東北等の地方大会や八ヶ岳・嵐山・亀岡等で開催された合宿・セミナーなど多くの行事に会員が参加しています。特に、100回記念となった2013年の日本大会と2015年の世界大会には大勢の会員が参加しました。

日本エスペラント協会の主催事業となったエスペラント漬け合宿には、上農さんと桐山さんが世話役として、また、国際教育者エスペランチスト連盟(ILEI)大会には、日本選出委員となった上農さんが世界大会と合わせて参加しています。

<世界大会、ILEI への参加>

- 2010年 ハバナ/ 上農、久場
- 2011年 コペンハーゲン/ 明石、上農、久場、永木、山本
- 2012年 ハノイ/ 上農、永木、広重、山本
昆明 ILEI / 上農
- 2013年 レイキャビック/ 山本
- 2015年<第100回>
リール/ 明石、桐山、久場、鳥居、永木、山本、米山
- 2016年 ニトラ/ 上農、久場
ニーレジハザ ILEI/ 上農
- 2017年 ソウル/ 上農、永木、山本
釜山 ILEI/ 上農
- 2018年 リスボン/ 上農、永木、山本
マドリッド ILEI/ 上農

<アジア大会への参加>

- 2016年 泉州/ 上農、山本



<日本大会への参加>

- 2010年 長崎/ 山本
- 2011年<日韓共同>
韓国・ソナム市/ 明石、上農、永木、早川、広重、山本
- 2012年 札幌/ 上農、木村、柿谷、久場
原田、山本
- 2013年<第100回>
東京/ 明石、上農、木村、久場
佐藤、永木、早川、原田、実沢、山本
- 2014年 小浜/ 明石、上農、木村
- 2015年 仙台/ 上農、桐山、山本
- 2016年 近江八幡/ 上農、桐山
- 2017年 横浜/ 明石、上農、木村、桐山、久場、鳥居、永木、原田、山本
- 2018年<日韓共同>
奈良/ 上農、桐山、山本
- 2019年<台風の影響により短縮開催>
さいたま市/ 上農

<エスペラント漬け合宿への参加>

- 2010年 上農、山本
- 2011年 上農、後藤、永木、広重、山本
- 2012年 明石、上農、永木、広重、山本
- 2013年 上農、永木、山本、米山
- 2015年 上農、桐山
- 2016年 上農、桐山、クーヴェ
- 2017年 上農、桐山
- 2018年 上農、桐山
- 2019年 上農、桐山

<セミナーオへの参加>

- 2010年 千葉/ 山本
- 2012年 東京/ 早川、山本
- 2015年 天童/ 上農、山本
- 2016年 嵐山/ 上農、原田、山本
- 2017年 名古屋/ 上農
- 2018年 嵐山/ 明石、上農、桐山、鳥居、早川、原田

2010年

- 2月21日 第21回総会(まちだ中央公民館)
- 3月 20周年記念誌発行
- 5月15日 発行記念食事会
- 6月12日 AMUZA KUNVENO(せりがや会館)
- 9月19日～20日 合宿(ハケ岳エスペラント館)
- 12月11日 ザメンホフ祭(町田市民文学館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 辺野古移設日米合意
- ・ 惑星探査機「はやぶさ」帰還



2011年

- 2月20日 第22回総会(まちだ中央公民館)
- 4月 メーリングリスト作成
- 6月11日 AMUZA KUNVENO(せりがや会館)
- 9月18日～19日 合宿(ハケ岳エスペラント館)
- 12月11日 ザメンホフ祭(まちだ中央公民館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 東日本大震災、福島原発事故
- ・ なでしこジャパン W杯優勝



2012年

- 1月22日 第23回総会(まちだ中央公民館)
- 4月 ホームページ開設
JEI 団体会員加入
- 6月19日 外国人との交流会(ひだまり荘)
- 7月10日 AMUZA KUNVENO(せりがや会館)
- 9月16日～17日 合宿(ハケ岳エスペラント館)
- 12月1日 ザメンホフ祭(まちだ中央公民館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 自民党政権奪還
- ・ ロンドンオリンピック



2013年

- 2月17日 第24回総会(まちだ中央公民館)
6月8日 AMUZA KUNVENO(まちだ中央公民館)
9月24日 体験報告会(ひだまり荘)
10月19日 外国人との交流会(まちだ中央公民館)
11月9日 水口文庫閉鎖
12月7日 ザメンホフ祭(せりがや会館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 富士山世界遺産登録
- ・ アルジェリア人質事件



2014年

- 2月9日 第25回総会(まちだ中央公民館)
4月5日 AMUZA KUNVENO(まちだ中央公民館)
8月9日 外国人との交流会(まちだ中央公民館)
9月20日～21日 合宿(ハケ岳エスペラント館)
12月6日 ザメンホフ祭(まちだ中央公民館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 御嶽山噴火
- ・ マララさんノーベル平和賞受賞



2015年

- 2月15日 第26回総会(まちだ中央公民館)
6月6日 AMUZA KUNVENO(まちだ中央公民館)
9月5日～6日 合宿(ハケ岳エスペラント館)
10月17日 外国人との交流会(まちだ中央公民館)
12月5日 ザメンホフ祭(まちだ中央公民館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 安保保障関連法成立
- ・ 米・キューバ国交回復



2016年

- 1月31日 第27回総会(町田市生涯学習センター)
6月4日 AMUZA KUNVENO(町田市生涯学習センター)
9月10日～11日 合宿(八ヶ岳エスペラント館)
12月3日 ザメンホフ祭(町田市生涯学習センター)

<世界・日本の出来事>

- ・ 熊本地震
- ・ 「やまゆり園」事件
- ・ リオデジャネイロオリンピック



2017年

- 1月29日 第28回総会(町田市生涯学習センター)
5月30日 外国人との交流会(ひだまり荘)
6月3日 AMUZA KUNVENO(町田市生涯学習センター)
9月9日～10日 合宿(八ヶ岳エスペラント館)
10月21日 エスペラント映画上映会(せりがや会館)
10月30日 外国人との交流会(ひだまり荘)
12月9日 ザメンホフ祭(町田市生涯学習センター)

<世界・日本の出来事>

- ・ 北九州豪雨
- ・ トランプ米政権発足



2018年

- 1月21日 第29回総会(町田市生涯学習センター)
6月2日 AMUZA KUNVENO(町田市生涯学習センター)
9月1日～2日 合宿(八ヶ岳エスペラント館)
12月1日 ザメンホフ祭(町田市生涯学習センター)

<世界・日本の出来事>

- ・ 西日本豪雨、北海道地震
- ・ 米朝史上初首脳会談



2019年

- 1月27日 第30回総会(町田市生涯学習センター)
- 6月1日 AMUZA KUNVENO(町田市生涯学習センター)
- 9月20日～21日 合宿(八ヶ岳エスペラント館)
- 10月8日 外国人との交流会(ひだまり荘)
- 12月7日 ザメンホフ祭(原町田三丁目会館)

<世界・日本の出来事>

- ・ 天皇即位、「令和」に改元
- ・ ラグビーW杯日本大会
- ・ 東日本台風大雨被害



Bharat さん(ネパール)との交流会
2012年6月



Reza さん(インドネシア)との交流会
2015年10月



2011年9月19日 第3回八ヶ岳合宿2日目 川俣溪谷ハイキング

町田エスペラント会 会則

第一章 総則

第1条(名称)

本会は町田エスペラント会と称し、Esperanto-klubo de Maçida と表す。

第2条(目的)

本会は、会員のエスペラント語学力の向上発展に寄与し会員相互の親睦を図るとともにエスペラントの普及と、あわせて地域や世界エスペラント界の個人、団体と密接な連携をもち積極的に協力する。

第3条(事業)

本会は前条目的を達成するため次の事業を行う。

1. 講習会、例会、ザメンホフ祭等の主催
2. 機関紙の発行
3. その他・各種行事への参加

第二章 会員

第4条(会員)

本会の会員は正会員と特別会員とする。

1. 正会員は本会の趣旨、目的に賛同する者とする。
2. 特別会員は本会と特別の関係にある者で総会で認めた者とする。

第5条(入会)

本会に入会を希望する者は会費を添えて会長に申し込むものとする。

第6条(会費)

正会員は別に定める会費を納入しなければならない。

2 すでに納入した会費は返還しない。

第7条(退会)

退会しようとする者は会長にその旨を届け出るものとする。

2 会員が次のいずれかに該当したときは役員会の決議により退会させることができる。

1. 本会の趣旨、目的に著しく反した行為があったとき。
2. 2年にわたり会費納入を怠ったとき。

第三章 役員

第8条(役員)

本会には次の役員をおく。

1. 会長 1名
 2. 副会長 若干名
 3. 会計 1名
 4. 監査 1名
- 2 会長は、会務を総括し、会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠席の時は、その職務を代行する。
- 4 会計は、会の出納事務を処理し、それらに関する帳簿及び書類を管理する。
- 5 監査は、会の財産や業務執行の状況を監査する。

第9条(役員の任期)

本会の役員任期は2年とする。ただし、再任はさまたげない。

第10条(事務局の設置及び所在地)

本会の事務を処理するため事務局を設ける。

2 事務局は会員連絡、機関紙発行及び各種行事担当からなる。

- 3 事務局長は会長が任免する。
- 4 事務局長宅を本会の所在地とする。

第四章 総会

第 11 条(総会)

総会は定期総会と臨時総会とする。

- 2 定期総会は毎年春に開催する。
- 3 総会は会長が招集する。

第 12 条(総会の議決事項)

総会は次の各号にあげる事項を議決する。

1. 事業計画及び収支予算
2. 事業報告及び収支決算
3. 会則の変更
4. その他本会の運営に重要な事項

第 13 条(総会の決議)

第 12 条の総会の議決は出席会員の過半数で決する。

第五章 会計

第 14 条(会計)

本会の会計は一般会計及び特別会計とする。

- 2 特別会計は特定の事業を行うため特定の収入をもって特定の支出に充て、一般会計とは区別して行う。

第 15 条(会計年度)

会計年度は毎年 1 月 1 日に始まり 12 月 31 日に終わるものとする。

第 16 条(経費)

本会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

第 17 条(報告承認)

本会の一般会計・特別会計の収支予算は総会において決議し、事業報告及び財産目録その他収支決算は総会に報告し承認を受けるものとする。

附則

本会の設立年月日は、1990 年 6 月 10 日とする。

本会則は、1990 年 6 月 10 日から施行する。

本会則は、2018 年 1 月 21 日(一部改正)から施行する。

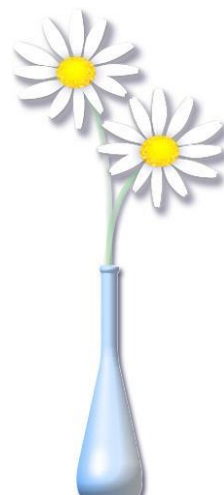
会費の変遷

第 6 条の別に定める額

1990 年～ 600 円

1992 年～ 1,200 円

1996 年～ 2,000 円



資 料

会 員 名 簿

五十音順(現・退)

	氏 名	市	入 会	退 会
1	明石 芙美子	町田市	1990	
2	上農 百合子	町田市	1993	
3	大西 一一	町田市	1990	
4	梶原 洋一	町田市	1990	
5	金子 孝枝	厚木市	2018	
6	河合 計井子	町田市	1990	
7	木島 健治	大和市	1990	
8	木村 護郎 <small>クリストフ</small>	町田市	2010	
9	桐山 雅昭	海老名市	2015	
10	久場 俊男	町田市	2002	
11	Christian Couvez	川崎市	2016	
12	高垣 秋夫	相模原市	1990	
13	鳥居 房子	町田市	2014	
14	永木 正子	相模原市	1990	
15	早川 吉則	川崎市	2000	
16	原田 正範	町田市	2012	
17	実沢 誠一郎	大和市	2011	
18	山本 美郷	相模原市	2010	
19	米山 圭子	小田原市	2011	
20	渡辺 智子	厚木市	2018	
21	一ノ瀬 浩	町田市	2014	2016
22	上田 桂子	町田市	2002	2011
23	小川 友子	町田市	2009	2015
24	柿谷 功	町田市	2009	2017.9 没
25	後藤 かずみ	横浜市	2002	2012
26	佐藤 利子	西東京市	1990	2018
27	三文字 政	多摩市	2004	2014
28	丁野 俊行	町田市	2012	2014
29	広重 研	伊勢原市	2010	2014
30	村田 重元	町田市	1992	2013.9 没
31	森田 光男	西東京市	1990	2013
32	吉岡 真紀	松阪市	2011	2013

緊急事態宣言が出される中で

30周年記念誌編集員
永木 正子

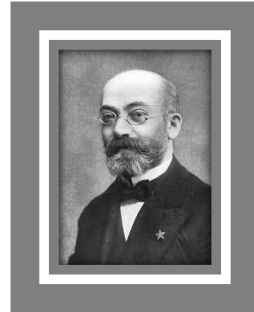
2010年に20周年記念誌を発行してから10年が経ちました。今回は、その続編として、その後の10年間の活動状況をまとめました。会員名簿を見ると、発足当時の会員(7人)よりこの10年に加入した会員(10人)の方が多く、時の流れを感じます。

前回は、会の発足から事業の移り変わりなど、活動の歴史を追う視点で編集しましたが、今回は、事業も定着してきたこともあり、前回の形式を基に比較的容易にまとめることができました。各事業については、前回同様、機関誌“AMEBRIETO”に掲載された各年度の事業報告と事業毎の報告記事が大変役に立ちました。参加できなかった会員への情報提供のためだけでなく、どこで役に立つかわからないので、これからも事業を開催した時にはわかりやすい報告を望みます。

20周年記念誌に比べて活動期間は短いですが、「エスペラントと私」をテーマに多くの会員に執筆していただき、さらに、30周年記念事業として取り組んだ、世界エスペラント協会の電子版会誌に投稿した記事も掲載したことで、読み応えのある内容になりました。

新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の中、自分にできることをしよう、と家に籠って編集に専念しました。わかりにくい表現や間違いなど、いたらない点につきましてはご容赦願います。

最後に、発行に当たり原稿をお寄せいただいた皆様、原稿の確認をしていただいた皆様のご協力に心から感謝します。



エスペラント創案者
ザメンホフ博士

<参考>

町田エスペラント会は、1990年6月10日に設立されました。

2010年3月に20周年記念誌を発行しています。1990年から2009年の活動につきましては、そちらをお読みいただければ幸いです。

20周年記念誌「20年のあゆみ」は、町田エスペラント会のホームページでご覧いただけます。

<https://amebrieto.jimdofree.com/>

町田エスペラント会 30周年記念誌
「この10年のあゆみ」

発行日 2020年6月
編集 永木 正子
発行 町田エスペラント会

【世界エスペラント協会機関誌 ESPERANTO 2020年4月号】

同協会の電子版会誌に投稿した記事(14頁参照)が紹介されました。

電子版会誌は、<https://revuoesperanto.org/>から誰でも自由に読むことができます。



Reta Revuo kalejdoskope

En la marita numero 2019 de la revuo Esperanto (p. 51) vi povis legi detalajn artikolojn pri tio, kio estas la Reta Revuo (<https://revuoesperanto.org>) kaj kiel ĝi evoluas. Ni kolektis ligilojn al kelkaj publikaĵoj, preparitaj speciale por la Reta Revuo, kiuj eble interesos vin.

Monda Kulturo

Tiu ĉi rubriko de la Reta Revuo estis lanĉita laŭ la iniciato de la estrarano de UEA Fernando Maia Jr. (legu pli detale en la marita numero 2019 de la revuo Esperanto (p. 54)).

Butersemaĵna karnavalo



Dima Ševčenko prezentas la artikolon pri ero de la rusa kulturo – Butersemaĵna karnavalo, kiu estas okazigata fine de februaro – komence de marto. Dum ĝi oni adiaŭas la vintron, bruligante ĝian remburitan figuron, ĝissate manĝas blinonj (krespojn), aranĝas plurajn ludojn kaj konkursojn, kantadas kaj dançadas.

La aŭtoro ankaŭ iom rakontas pri sia propra sperto de vojaĝo al la Butersemaĵna karnavalo, kiu okazis en la vintra arbaro, malproksime de la urbo.

<https://revuoesperanto.org/butersemaĵna>

Turismo

Mia travivaĵo de Esperanta Vojaĝo

Wu Hanping (Harpina) el Ĉinio estis profunde impresita dufoje de siaj Esperantaj vojaĝoj. Ŝi detale dividas kun ni siajn spertojn pri vizito de kelkaj landoj kaj renkontiĝoj kun esperantistoj tie.

https://revuoesperanto.org/vojaĝo%C4%9Doj_luapina



Floroj sur koro-forma brulligno

Opinio

Pri la Alvoko al la Diplomatoj de L. L. Zamenhof

Vinko Ošlak el Aŭstrio analizas el sia vidpunkto la artikolon "Post la granda

Beletra rubriko

Nokta Monteto

"Nokta Monteto" estas malgranda rakonto de Misaŭa Seiĉirou, verkita kadre de la 30-jariĝfesto de la rondo "Esperanto-Klubo de Maĉida" en Tokio, Japanio, kiu naskiĝis la 10-an de junio 1990.

https://revuoesperanto.org/nokta_monteto



Alvoko al la diplomatoj

Alvoko al la diplomatoj" de L. L. Zamenhof, kiu aperis en *The British Esperantist* en 1915.

https://revuoesperanto.org/brita_esperantisto



Opinio

Ankaŭ vi povas esti aŭtoro de la Reta Revuo!

Por kontribui, skribu al la redakcio redakcio@revuoesperanto.org (kun noto en la titolo "Reta Revuo").

木村さんの原稿

実沢さんの原稿

<Mesaĝo de UEA>

Universala Esperanto-Asocio, kiu eldonas la revuon Esperanto, bezonas la subtenon de ĉiuj esperantistoj en la mondo. Japanaj esperantistoj bonvenas aliĝi per <https://uea.org/alighoj/alighilo>.

